

厚生労働科学研究費補助金
政策科学総合研究事業（統計情報総合研究）

受療行動調査による患者の満足度と意識・行動等の現状と推移、
相互の関連性およびその規定要因に関する研究

平成 25 年度 総括・分担研究報告書

研究代表者 村上 義孝

平成 26 (2014) 年 3 月

目 次

・ 総括研究報告	
受療行動調査による患者の満足度と意識・行動等の現状と推移、相互の関連性 およびその規定要因に関する研究	1
村上 義孝	
・ 分担研究報告	
1 . 受療行動調査の患者満足度を示す項目における経時的変化の検討	9
村上 義孝、上原 里程	
2 . 受療行動調査における患者満足度に影響する医療施設調査の項目の探索	23
村上 義孝、松山 裕、柏原 康佑	
3 . 受療行動調査における心身の状態と満足度の疾患別分布および相互の関連に ついての研究	34
宮下 光令	
・ 研究成果の刊行に関する一覧表	50
・ 研究成果の刊行物・別刷	51

厚生労働科学研究費補助金（政策科学総合研究事業（統計情報総合研究））
総括研究報告書

受療行動調査による患者の満足度と意識・行動等の現状と推移、
相互の関連性およびその規定要因に関する研究

研究代表者 村上 義孝 滋賀医科大学社会医学講座医療統計学部門 准教授

研究要旨 研究班の初年度として、受療行動調査・患者調査・医療施設調査を統計法第33条に基づく申請により入手・突合し、3つの課題に対応した解析データを作成するとともに、患者満足度の経時的変化、患者満足度に影響する医療施設調査の項目の探索、傷病分類別にみた療養生活の質指標の検討、がん患者における療養生活の質に影響する要因探索の4つを実施した。その結果、いくつかの患者満足度の項目で経時変化パターンが医療施設規模によって異なる、病院種別、開設者、受動喫煙防止対策、医療安全体制(全般)、研修の実施状況などで全体的な満足度の分布に違いがあった、がん患者では療養生活の質に年齢やがん部位が影響を及ぼすなどが明らかになった。次年度実施に向けた基礎検討が終わり、研究準備がほぼ完了したと考えられる。

研究分担者氏名・所属機関名及び所属施設における職名

松山 裕 東京大学大学院情報学環学際情報学府・准教授
宮下 光令 東北大学大学院医学系研究科保健学専攻緩和ケア看護学分野・教授

研究協力者氏名・所属機関名及び所属施設における職名

上原 里程 宇都宮市保健所・保健医療監
柏原 康佑 東京大学医学系研究科公共健康医学専攻生物統計学分野・助教
岩淵 正博 東北大学大学院医学系研究科保健学専攻緩和ケア看護学分野・大学院生

ために図1に示すような3つの分担課題、1. 患者の満足度と意識・行動等の分布の推移と相互関連性の評価、2. 患者の満足度等の施設間差とその規定要因の検討、3. 患者の満足度や療養生活の質の指標等の現状の分布とその規定要因の評価を設定し、本年度から検討を始めた。初年度にあたる今年、受療行動調査・患者調査・医療施設調査を統計法第33条に基づく申請により入手・突合し、上記3課題にあわせた解析データを各々作成するとともに、課題1では患者満足度の経時的変化の検討を、課題2では患者満足度に影響する医療施設調査の項目の探索を、課題3では傷病分類別にみた療養生活の質指標の検討を、がん患者における療養生活の質に影響する要因探索を実施したので報告する。

A. 研究目的

本研究の目的は、受療行動調査に対して患者調査、医療施設特性をもつ医療施設調査と突合することで、患者の満足度と意識・行動等の現状と推移(経時変化)、相互関連性および規定要因を検討することである。この目的を達成する

B. 研究方法

研究の体制として上記3課題を研究代表者および研究分担者の各々が担当・実施し、それらを研究代表者が総括する形式とした。以下にその詳細を示す。

患者満足度の経時的変化の検討

これまで実施された6調査(平成8、11、14、17、20、23年)の調査項目の中から経時的に収集されている調査項目を抽出し、それらを統合したデータを作成することで、調査項目の経時変化を検討した。本年は患者満足度を示す調査項目に焦点をあて、外来6項目(診察までの待ち時間、診察時間、医師による診察、医師との対話、診察時のプライバシー、全体的な満足度)、入院6項目(医師による診察、医師との対話、医師以外のスタッフ、病室でのプライバシー、食事の内容、全体的な満足度)について病院規模別に経時変化を示した。患者満足度のカテゴリは満足(非常に満足している、やや満足している)、ふつう(ふつう)、不満(やや不満である、非常に不満である)、その他(その他)および無回答(無回答)を含めた5カテゴリのものと、無回答を除いた4カテゴリの2パターンについて、拡大乗数を用い集計し経時変化を示すグラフを作成した。

解析データセットについては、統計法第33条により入手した受療行動調査基本集計データ6回分について、個々の変数名、コードなどを統一コードに整理・結合することで、1,076,346 オブザベーションのデータを完成させた。本データセットを用い、病院種別(特定機能病院、大病院、中病院、小病院、療養病床を有する病院)にわけて、外来・入院別に集計を実施した。なお平成8年受療行動調査には病院種別のコードが存在しないため除外した。また平成23年受療行動調査では岩手、宮城、福島県は調査を未実施だったため、今回の解析では上記データベースから岩手・宮城・福島県を除外した形で解析を実施した。

患者満足度に影響する医療施設調査の項目の探索

本年度は患者満足度に影響を与える医療施設特性の探索を目的として、医療施設調査の項目と患者満足度との関連について検討した。患者

満足度として「全体としてこの病院に満足していますか(以下、全体満足度)」を使用した。探索に用いた医療施設調査の項目は病院種別、開設者など表1に示す27項目であった。

検討方法として全体満足度を満足(非常に満足している、やや満足している)、ふつう(ふつう)、不満(やや不満である、非常に不満である)、その他(その他)の4カテゴリに分け、調査項目ごとに外来・入院別に検討した。検討方法として満足割合(集団全体の中で満足以分類された人の割合)、不満足割合(集団全体の中で不満足以分類された人の割合)に着目し、カテゴリの割合の最大値、最小値から範囲を算出することで、カテゴリ間で回答(患者満足度)が大きくばらつく項目を探索した。便宜上、満足割合は7%以上、不満足割合は3%以上のものを回答が大きくばらつく項目と判定した。

解析データセットについては、平成23年受療行動調査基本集計(150,620 オブザベーション)を使用した。

傷病分類別にみた療養生活の質指標の検討

療養生活の質の指標について焦点をあて、その現状分布とその規定要因について、がん患者に焦点をあて検討した。使用した項目は平成23年受療行動調査の「現在の心身の状態についてお聞かせください。」(外来では問5、入院では問3)であり、特に「からだの苦痛がある」、「痛みがある」、「気持ちがつらい」の3項目の検討を進めた。

検討課題としては、1)傷病分類に基づいて、患者の主傷病を分類し、傷病分類ごとに心身状態の分布について拡大乗数を用い算出、比較検討した。また2)受療行動調査におけるがん患者の結果と一般市民集団との違いを検討するために、昨年度実施した調査結果との違いを年齢調整したもとの検討した。

対象となる平成23年受療行動調査の対象者数は50,479人(外来:31,795人、入院:18,684人)、その中のがん患者は8,649人(入

院 3,877 人、外来 4,772 人)であった。

がん患者における療養生活の質に影響する 要因探索

平成 23 年受療行動調査のがん患者を対象に、療養生活の質に影響を及ぼす要因を探索する目的で、「からだの苦痛がある」、「痛みがある」、「気持ちがつらい」の各項目を反応変数としたロジスティック回帰を実施した。回帰モデルに投入した変数は性別、年齢カテゴリ、病院種別、緩和ケア病棟の有無、緩和ケアチームの有無、がん部位とした。解析は入院、外来別に実施した。

(倫理面への配慮)

本研究では、既存の統計資料または連結不可能匿名化された情報を用いる。個人情報扱わないため、個人情報保護に関する問題は生じない。

C. 研究結果

患者満足度の経時的変化の検討

図 2 に外来患者における全体的な満足度の推移について、医療施設規模別にまとめたものを示す。入院ほど明瞭でないものの、特定機能病院と小病院で満足割合の増加と不満割合の減少が観察された。療養病床を有する病院でも不満割合の減少傾向がみられたが、大病院、中病院では明瞭な変化が観察されなかった。図 3 に入院患者における全体的な満足度の推移について、医療施設規模別にまとめたものを示す。特定機能病院、大病院、小病院で満足割合の増加と不満割合の減少が観察された。中病院でも不満割合の減少傾向がみられたが、満足割合については変化がみられなかった。療養病床を有する病院については変化がみられなかった。

外来患者を対象とした満足度の個別項目をみると、待ち時間では小病院と療養病床を有する病院の不満割合の減少、特定機能、小病院と療養病床を有する病院で不満割合の減少が観察さ

れた。診察時間では満足割合の減少が大病院、中病院で観察された。医師による診察では小病院における満足割合の増加が、医師との対話では満足割合の減少が大病院、中病院で観察された。診察時のプライバシーについては満足・不満割合の減少が特定機能、大、中病院で観察された。入院患者を対象とした満足度の個別項目をみると、医師による診察では満足割合の増加と不満割合の減少が特定機能、大、中、小病院で観察された。医師との対話では満足割合の増加と不満割合の減少が特定機能、大、中病院で観察された。医師以外のスタッフの対応では特定機能、大病院で満足割合の増加と不満割合の減少が観察された。病室のプライバシーでは大きな変化はなく、食事の内容では特定機能、小病院、療養病床を有する病院での満足割合の増加と不満割合の減少が観察された。

患者満足度に影響する医療施設調査の項目 の探索

図 4 に開設者別にみた全体的な満足度の分布を示した。入院では満足・不満割合はともに開設者が国・その他で高い満足と低い不満が、医療法人・個人で低い満足と高い不満の傾向がみられ、その差は満足で 7.6%、不満では 2.1%であった。外来では開設者が国で高い満足と低い不満が、公的医療機関で低い満足と高い不満の傾向がみられ、その差は満足で 10.4%、不満で 2.8%であった。

これらカテゴリ間の差(範囲)に着目して、医療施設調査項目別に満足、不満の範囲を入院、外来別に示したものを表 1 に示す。満足割合に差がみられた項目として、病院種別(入院、外来)、開設者(入院、外来)、医育機関(入院)、委託(給食)(入院)、委託(滅菌)(入院)、委託(保守・医療機器)(入院)、委託(検体検査)(入院)、受動喫煙防止対策(外来)、医療安全体制(全般)(外来)、院内感染施設内回診(外来)、緩和ケア病棟の有無(外来)、研修の実施状況(入院、外来)で

あった。不満割合に差がみられた項目として、委託（給食）（入院）、受動喫煙防止対策（外来）、医療安全体制（全般）（入院）、研修の実施状況（入院）であった。

傷病分類別にみた療養生活の質指標の検討

1) 疾患別にみた身体状態の項目分布の比較

主要疾患別の療養生活の質の指標は「からだの苦痛がある」「痛みがある」に関しては筋骨格系及び結合組織の疾患ではいと答えた人の割合が外来・入院ともに70%程度と高く、他の疾患では神経系の疾患、呼吸器系の疾患でやや高く、外来で20~40%、入院で40~60%程度であった。「気持ちがつらい」に関しては精神及び行動の障害で50~60%と高く、他の疾患では外来で20~40%、入院で40~50%であった。

2) 受療行動調査におけるがん患者集団の結果と、一般市民集団の結果との比較

昨年行った同一質問による一般市民の調査結果と比較検討した結果、いずれの項目も入院では一般市民より高値であったものの、外来では「からだの苦痛がある」「痛みがある」に関しては一般市民とあまり差がなく、「気持ちがつらい」は外来がん患者のほうが一般市民より高値であった。

がん患者における療養生活の質に影響する要因探索

がん患者に対して療養生活の質の指標の規定要因を検討した結果、年齢が75歳以上であつこと、膵臓がんの患者は療養生活の質が低く、前立腺がんの患者は療養生活の質が相対的に高かった。

D. 考察

受療行動調査における患者満足度と意識・行動等の現状と推移、相互の関連性を検討し、それら規定要因の探索を進めるため、本年度は4つの基礎的検討を実施した。

患者満足度の経時的変化の検討では、今まで実施された受療行動調査6調査を統合した解析データを作成し、医療施設規模に着目し患者満足度の経時変化を検討した。その結果として経時変化のパターンは医療施設規模によって異なる項目があることが判明した。患者満足度をはじめとする主観的な質問項目に影響する要因として、患者の受療要因のほか、医療施設特性による影響が大きいと思われる。この基礎的検討で得られた知見を次年度さらに進め、他調査項目の検討、相互関連性、規定要因についての解析を進める予定である。

患者満足度に影響する医療施設調査の項目の探索については、いくつかの項目で全体的な満足度の分布に違いがみられた。病院種別、開設者、医育機関の有無などでの満足度の違いは、医療施設規模と関連する医療施設特性によるところが大きいと思われる。これは他項目（受動喫煙防止対策、医療安全体制（全般）、研修の実施状況）でも同様であり、個々の医療施設特性の影響というより、その上流にある医療施設規模・機能によるところが大きいと推察される。医療施設特性の違い、すなわち施設間差が患者満足度と与える影響は無視できないことが明らかになり、次年度以降、施設間差の規定要因の同定とその大きさの評価などを進めていく予定である。

傷病分類別にみた療養生活の質指標の検討、がん患者における療養生活の質に影響する要因探索の2課題では、平成23年受療行動調査から新しく加わった「療養生活の質」の設問（心身状態）について、傷病分類別にその分布を検討するとともに、がん患者について一般市民集団との違いを検討した。またがん患者を対象に療養生活の質に影響を及ぼす要因探索を試みた。受療行動調査を用いた影響要因の探索は新しい試みであり、これから解決すべき課題も多い。この課題に対し批判的吟味を積み重ねることで「療養生活の質」に関する設問の利用可能性や限界などが明らかになると思われ、がん以外の

他疾患に対する検討の可能性が広がると思われる。

E．結論

本年度は、当初計画した3つの分担課題に対して4つのテーマについて基礎的検討を実施した。次年度研究の本格実施に向けた準備がおおよそ完了したと考えられる。

F．健康危機情報

なし

G．研究発表

1．論文発表

なし

2．学会発表

- 1) 宮下光令，加藤雅志，清水恵，森田達也，佐藤一樹，藤澤大介．日本のがん患者のQOL：受療行動調査を用いた全国調査．日本臨床腫瘍学会（仙台）2013．
- 2) 宮下光令，加藤雅志，清水恵，佐藤一樹，藤澤大介，森田達也．全国のがん患者のQuality of Life：平成23年度受療行動調査と一般市民の比較．日本癌治療学会（京都）2013．

H．知的財産権の出願・登録状況（予定を含む）

1．特許取得

なし

2．実用新案登録

なし

3．その他

なし

図1 . 研究班の目的と3つの分担課題

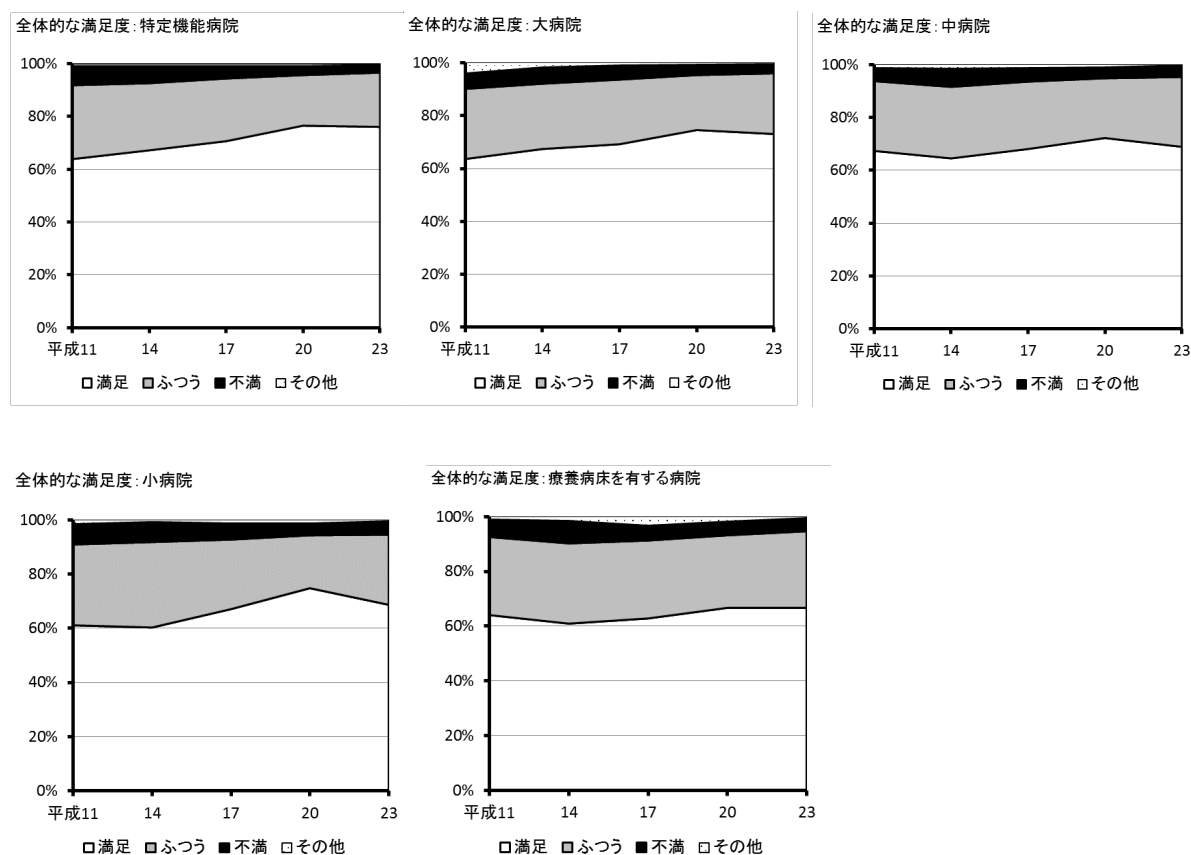
目的: 受療行動調査、患者調査、医療施設調査を突合し、
 患者の満足度と意識・行動等の現状、推移、
 相互関連性、それらの規定要因を分析する。

分担課題1: 患者の満足度と意識・行動等の分布の推移と相互関連性の評価
 受療行動調査(H8, 11, 14, 17, 20, 23年)の経年推移、相互関連性の評価
 医療の質評価における最新動向の把握
期待される成果: わが国の患者による医療の質評価の現状・推移等がわかる

分担課題2: 患者の満足度等の施設間差とその規定要因の検討
 患者満足度に対し医療施設を単位とした解析、施設間差の推定、規定要因探索
期待される成果: 施設間差の規定要因は今後の受療行動調査の重要資料

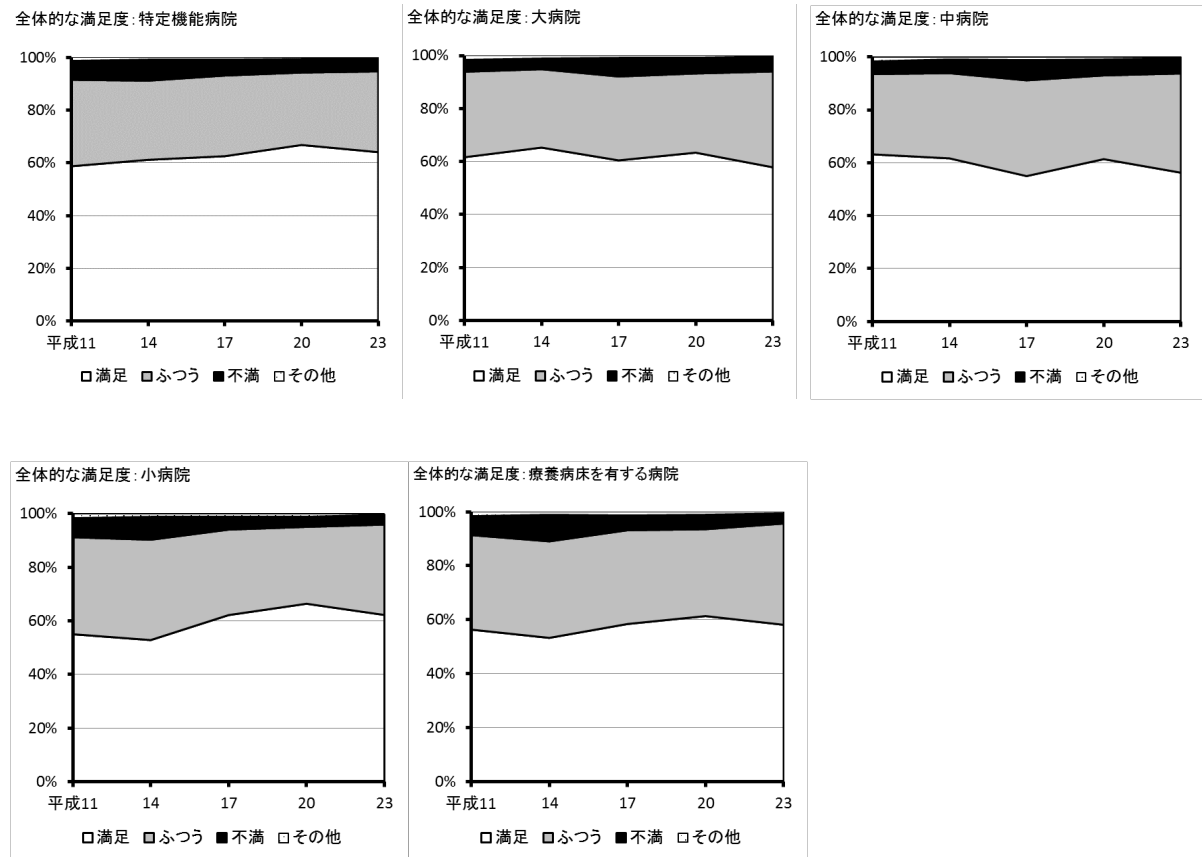
分担課題3: 患者の満足度・療養生活の質の指標等の分布・規定要因の評価
 現状の規定要因として患者特性を取り上げ、
 患者の満足度等の情報により医療の質評価の指標を検討
期待される成果: 公的統計からがん患者の医療の質(QOL)指標などが算出

図2 . 医療施設規模別にみた外来患者における全体的な満足度の推移



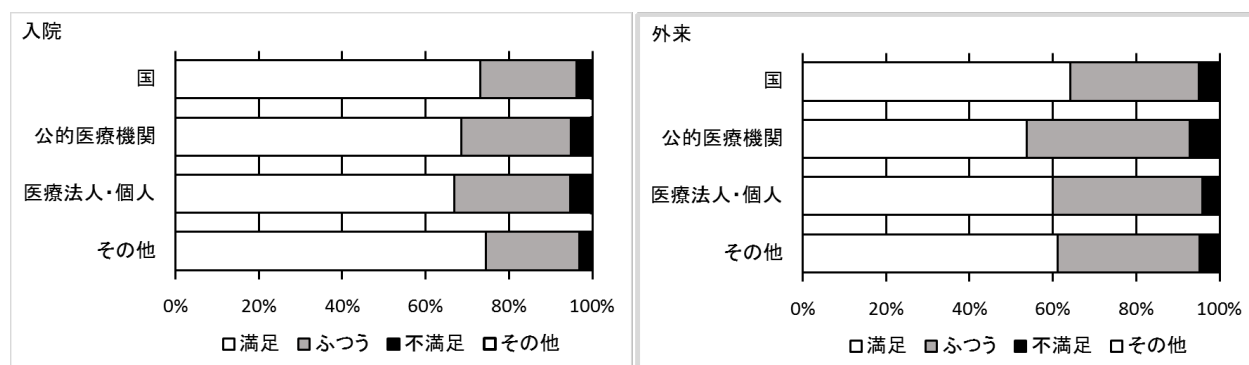
患者満足度のカテゴリは満足(非常に満足している、やや満足している)、ふつう(ふつう)、不満(やや不満である、非常に不満である)、その他(その他)の4カテゴリとし、無回答は除いた。

図3. 医療施設規模別にみた入院患者における全体的な満足度の推移



患者満足度のカテゴリは満足(非常に満足している、やや満足している)、ふつう(ふつう)、不満(やや不満である、非常に不満である)、その他(その他)の4カテゴリとし、無回答は除いた。

図4 . 開設者別にみた全体的患者満足度



カテゴリ間の範囲：入院は満足7.6%、不満足2.1%、外来は満足10.4%、不満足2.8%

表1 . 医療施設調査項目別にみた、全体的患者満足度の満足・不満足割合のばらつき

		カテゴリ間の範囲	
		満足	不満
病院種別	入院	9.4	1.8
	外来	7.8	2.2
開設者	入院	7.6	2.1
	外来	10.4	2.8
医育機関	入院	7.8	1.6
	外来	6.0	0.1
委託(給食)	入院	7.4	3.5
	外来	6.7	2.4
委託(滅菌)	入院	7.5	1.7
	外来	4.2	0.8
委託(保守・医療機器)	入院	12.1	2.9
	外来	4.0	0.9
委託(検体検査)	入院	19.3	2.2
	外来	5.2	0.7
委託(保守・医療ガス)	入院	3.5	0.4
	外来	2.0	0.7
委託(清掃)	入院	3.9	2.3
	外来	1.9	0.7
委託(搬送)	入院	3.4	1.2
	外来	1.2	0.6
退院調整支援担当者	入院	2.9	0.7
	外来	0.6	0.9
受動喫煙防止対策	入院	5.9	4.8
	外来	11.1	5.2
医療安全体制(全般)	入院	5.2	4.6
	外来	17.6	0.8
院内感染防止対策	入院	2.4	1.9
	外来	1.4	2.6
医療機器安全管理	入院	2.1	0.4
	外来	1.4	0.0
医薬品安全管理	入院	0.5	0.4
	外来	0.6	0.2
院内感染専任担当者	入院	2.8	1.1
	外来	1.1	0.5
院内感染施設内回診	入院	1.7	1.0
	外来	12.4	1.1
保守計画策定	入院	0.6	0.5
	外来	0.6	0.2
保守計画実施	入院	1.7	0.4
	外来	0.1	0.1
患者担当相談者の配置	入院	1.3	0.1
	外来	1.1	1.1
医療保険等による在宅サービス実施	入院	1.6	0.6
	外来	3.3	0.9
介護保険による在宅サービス実施	入院	2.1	0.3
	外来	1.6	0.1
緩和ケア病棟の有無	入院	1.1	0.5
	外来	9.1	1.0
緩和ケアチームの有無	入院	5.8	1.4
	外来	0.8	0.9
新人看護職員	入院	5.7	0.8
	外来	0.5	1.7
研修の実施状況	入院	8.4	3.2
	外来	8.9	2.2

カテゴリ間の範囲：満足・不満足割合の最大値 最小値、満足割合について範囲が7%以上、不満足割合について範囲が3%以上のものは斜影で示した。

厚生労働科学研究費補助金（政策科学総合研究事業（統計情報総合研究））
分担研究報告書

受療行動調査の患者満足度を示す項目における経時的変化の検討

研究代表者 村上 義孝 滋賀医科大学社会医学講座医療統計学部門 准教授
研究協力者 上原 里程 宇都宮市保健所 保健医療監

研究要旨 受療行動調査・患者調査・医療施設調査を統計法第33条に基づく申請により入手・突合し、患者満足度の経時的変化の検討を行った。その結果、いくつかの患者満足度の項目で経時変化パターンが医療施設規模によって異なることが明らかになった。

A．研究目的

本研究テーマの目標は、受療行動調査に対して患者調査、医療施設特性をもつ医療施設調査と突合することで、患者の満足度と意識・行動等の現状と推移(経時変化)、相互関連性および規定要因を検討することである。

初年度にあたる今年は、受療行動調査・患者調査・医療施設調査を統計法第33条に基づく申請により入手・突合しデータセットを用いて、患者満足度の経時的変化を検討したので報告する。

B．研究方法

これまで実施された6調査(平成8、11、14、17、20、23年)の調査項目の中から経時的に収集されている調査項目を抽出し、それらを統合したデータを作成することで、調査項目の経時変化を検討した。本年は患者満足度を示す調査項目に焦点をあて、外来6項目(診察までの待ち時間、診察時間、医師による診察、医師との対話、診察時のプライバシー、全体的な満足度)、入院6項目(医師による診察、医師との対話、医師以外のスタッフ、病室でのプライバシー、食事の内容、全体的な満足度)について病院種別に経時変化を示した。患者満足度のカテゴリは満足(非常に満足している、やや満足している)、ふつう(ふつう)、不満(やや不満である、非常に不満である)、その他(その他)および無回答(無回答)を含めた5カテゴリのもの、

無回答を除いた4カテゴリの2パターンについて、拡大乗数を用い集計し経時変化を示すグラフを作成した。

解析データセットについては、統計法第33条により入手した受療行動調査基本集計データ6回分について、個々の変数名、コードなどを統一コードに整理・結合することで、1,076,346 オブザベーションのデータを完成させた。本データセットを用い、病院種別(特定機能病院、大病院、中病院、小病院、療養病棟を有する病院)にわけて、外来・入院別に集計を実施した。なお平成8年受療行動調査には病院種別のコードが存在しないため除外した。また平成23年受療行動調査では岩手、宮城、福島県は調査を未実施だったため、今回の解析では上記データベースから岩手・宮城・福島県を除外した形で解析を実施した。

(倫理面への配慮)

本研究では、既存の統計資料または連結不可能匿名化された情報を用いる。個人情報扱わないため、個人情報保護に関する問題は生じない。

C．研究結果

病院種別にみた患者満足度の推移について、図1から図6に外来患者を、図7から図12に入院患者を各々示した。

外来患者を対象とした満足度の個別項目では、

図1の診察までの待ち時間では、特定機能、小病院と療養病床を有する病院で不満割合の減少が観察された。図2の診察時間では、満足割合の減少が大病院、中病院で観察された。図3の医師による診察では、小病院における満足割合の若干の増加が観察された。図4の医師との対話では、満足・不満割合の減少が特定機能、大、中病院で観察された。図5の診察時のプライバシーでは、満足・不満割合の減少が特定機能、大、中病院で観察された。図6の患者の全体的な満足度では、入院ほど明瞭でないものの、特定機能病院と小病院で満足割合の増加と不満割合の減少が観察された。療養病床を有する病院でも不満割合の減少傾向がみられたが、大病院、中病院では明瞭な変化が観察されなかった。

入院患者を対象とした満足度の個別項目では、図7の医師による診察では、満足割合の増加と不満割合の減少が特定機能、大、中、小病院で観察された。図8の医師との対話では、満足割合の増加と不満割合の減少が特定機能、大、中病院で観察された。図9の医師以外のスタッフの対応では、特定機能、大病院で満足割合の増加と不満割合の減少が観察された。図10の病室のプライバシーでは大きな変化はなく、図11の食事の内容では、特定機能、小病院、療養病床を有する病院での満足割合の増加と不満割合の減少が観察された。図12の全体的な満足度では、特定機能病院、大病院、小病院で満足割合の増加と不満割合の減少が観察された。中病院でも不満割合の若干の減少傾向がみられたが、満足割合については変化がみられなかった。療養病床を有する病院については変化がみられなかった。

D．考察

患者の満足度と意識・行動等の現状と推移(経時変化)、相互関連性および規定要因を検討するため、初年度にあたる今年、受療行動調査・患者調査・医療施設調査を統計法第33条

に基づく申請により入手・突合し、患者満足度に焦点をあて、その経時変化を検討した。

患者満足度の経時変化の検討では、今まで実施された受療行動調査6調査を統合した解析データを作成し、医療施設規模に着目し患者満足度の経時変化を検討した。その結果として経時変化のパターンは病院種別で異なる項目があることが判明した。患者満足度をはじめとする主観的な質問項目に影響する要因として、患者の受療要因のほか、医療施設特性による影響が大きいと思われる。この基礎的検討で得られた知見を次年度さらに進め、他調査項目の検討、相互関連性、規定要因についての解析を進める予定である。

E．結論

今までの受療行動調査6調査を統合した解析データを作成し、医療施設規模に着目し患者満足度の経時変化を検討した結果、経時変化のパターンは病院種別で異なる項目があった。

F．健康危機情報

なし

G．研究発表

1．論文発表

なし

2．学会発表

なし

H．知的財産権の出願・登録状況(予定を含む)

1．特許取得

なし

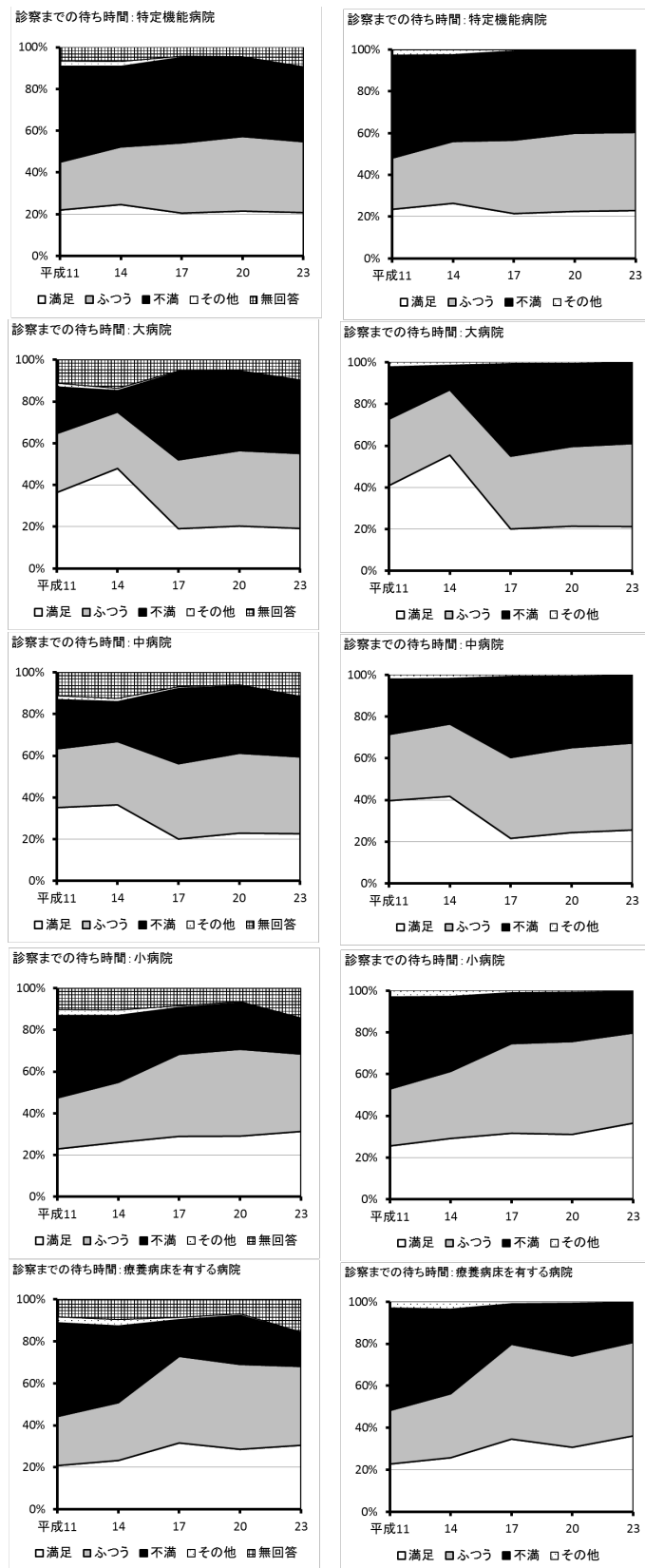
2．実用新案登録

なし

3．その他

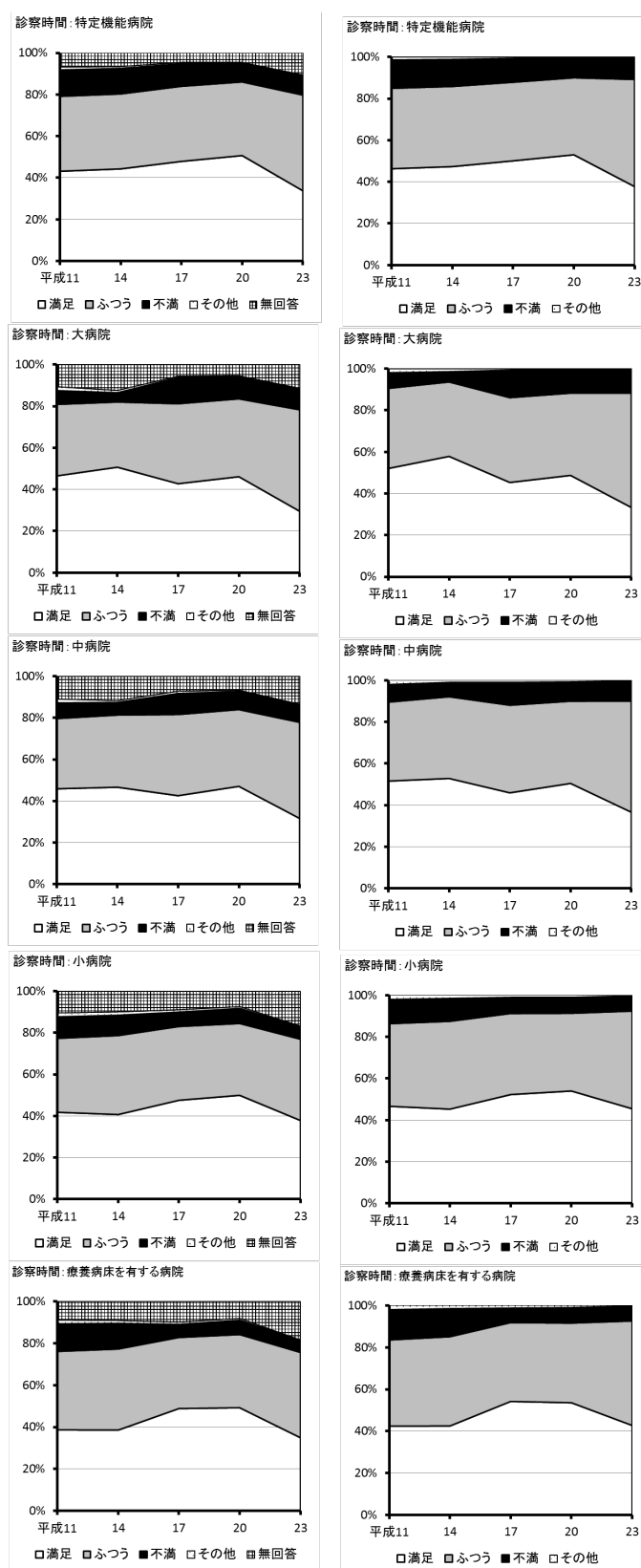
なし

図1. 病院種別にみた外来患者における満足度の推移(診察までの待ち時間)



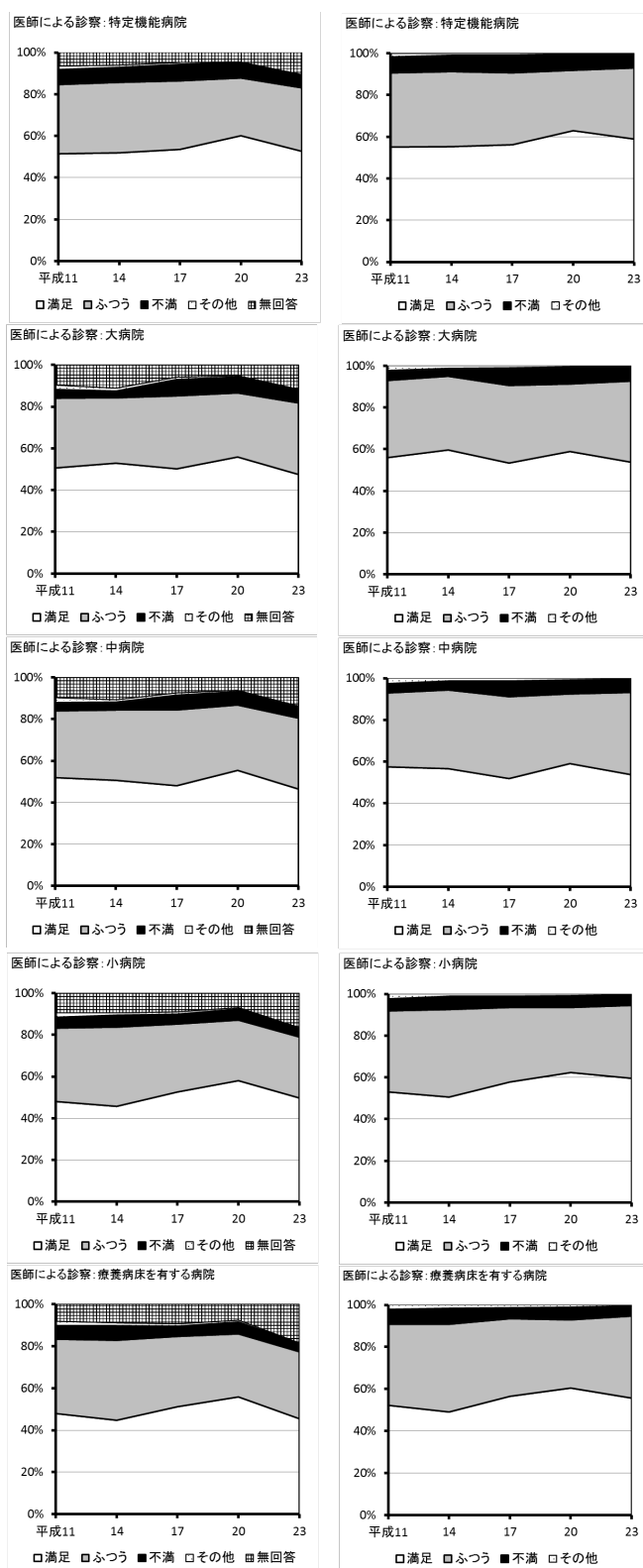
満足(非常に満足している、やや満足している)、ふつう(ふつう)、不満(やや不満である、非常に不満である)、その他(その他)の4カテゴリとし、無回答を加えたもの(左側)と除外したもの(右側)を作成した。

図2. 病院種別にみた外来患者における満足度の推移(診察時間)



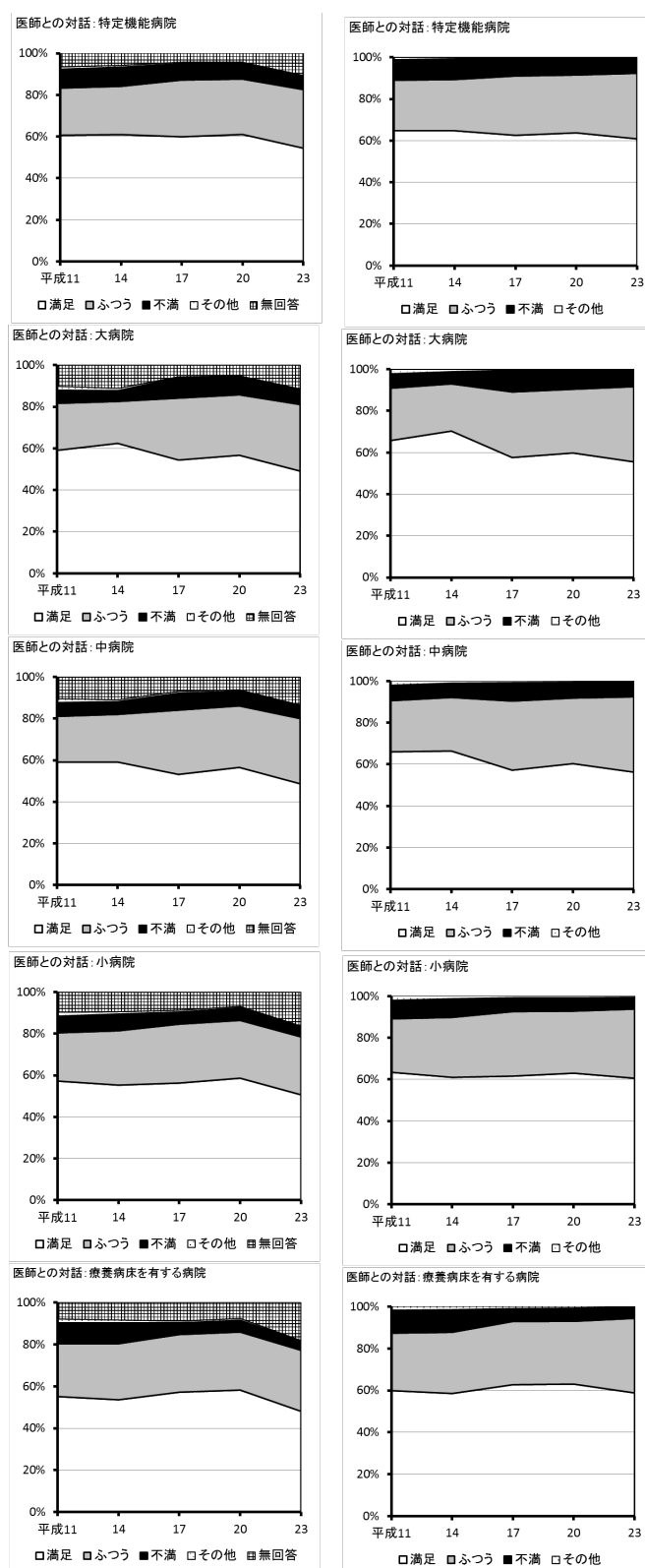
満足(非常に満足している、やや満足している)、ふつう(ふつう)、不満(やや不満である、非常に不満である)、その他(その他)の4カテゴリとし、無回答を加えたもの(左側)と除外したもの(右側)を作成した。

図3. 病院種別に見た外来患者における満足度の推移(医師による診察)



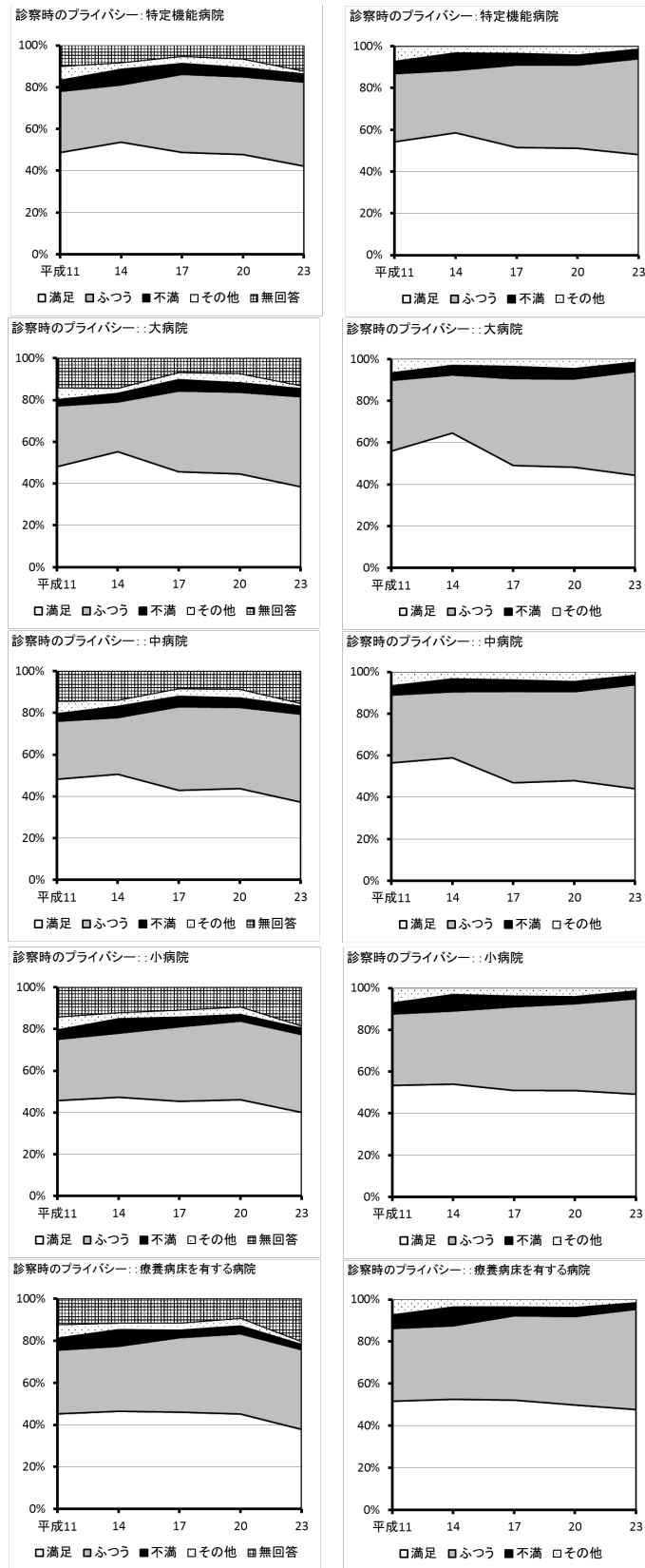
満足(非常に満足している、やや満足している)、ふつう(ふつう)、不満(やや不満である、非常に不満である)、その他(その他)の4カテゴリとし、無回答を加えたもの(左側)と除外したもの(右側)を作成した。

図4. 病院種別に見た外来患者における満足度の推移(医師との対話)



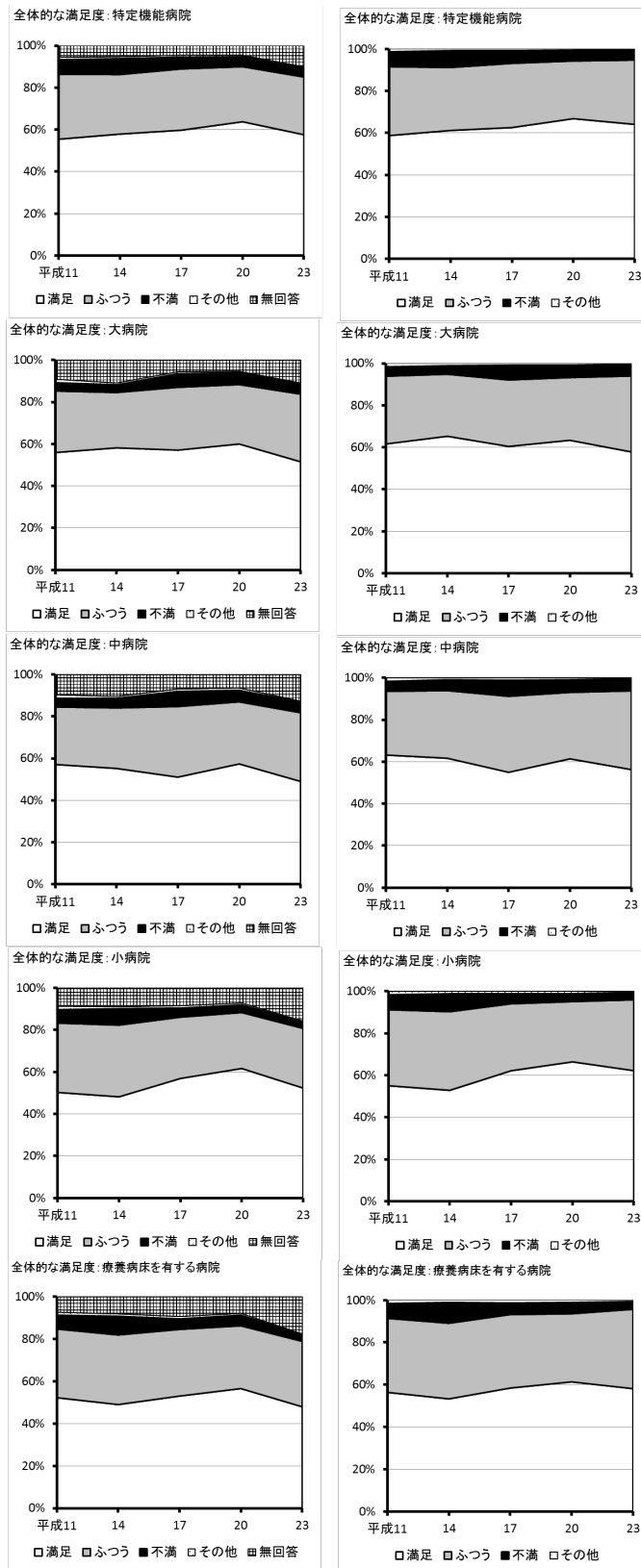
満足(非常に満足している、やや満足している)、ふつう(ふつう)、不満(やや不満である、非常に不満である)、その他(その他)の4カテゴリとし、無回答を加えたもの(左側)と除外したもの(右側)を作成した。

図5. 病院種別にみた外来患者における満足度の推移(診察時のプライバシー)



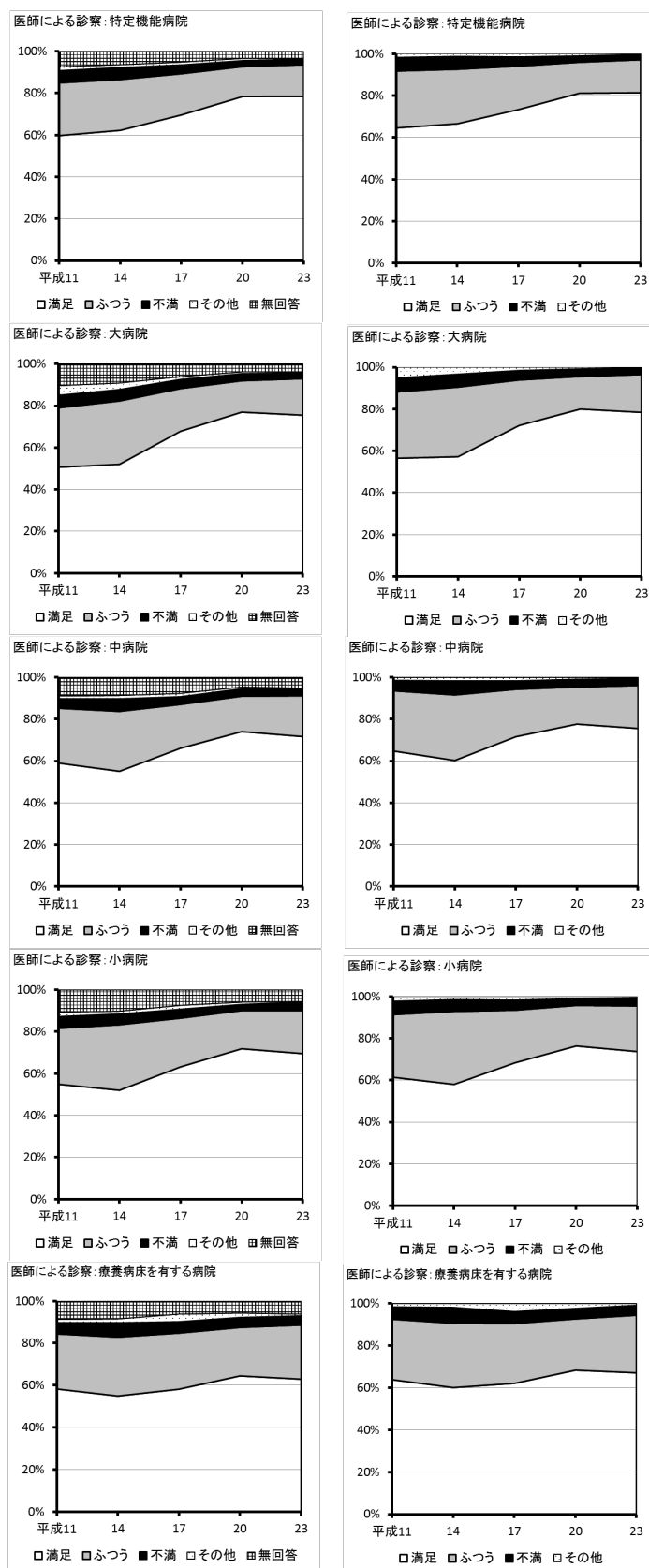
満足(非常に満足している、やや満足している)、ふつう(ふつう)、不満(やや不満である、非常に不満である)、その他(その他)の4カテゴリとし、無回答を加えたもの(左側)と除外したもの(右側)を作成した。

図 6 . 病院種別にみた入院患者における満足度の推移(全体的な満足度)



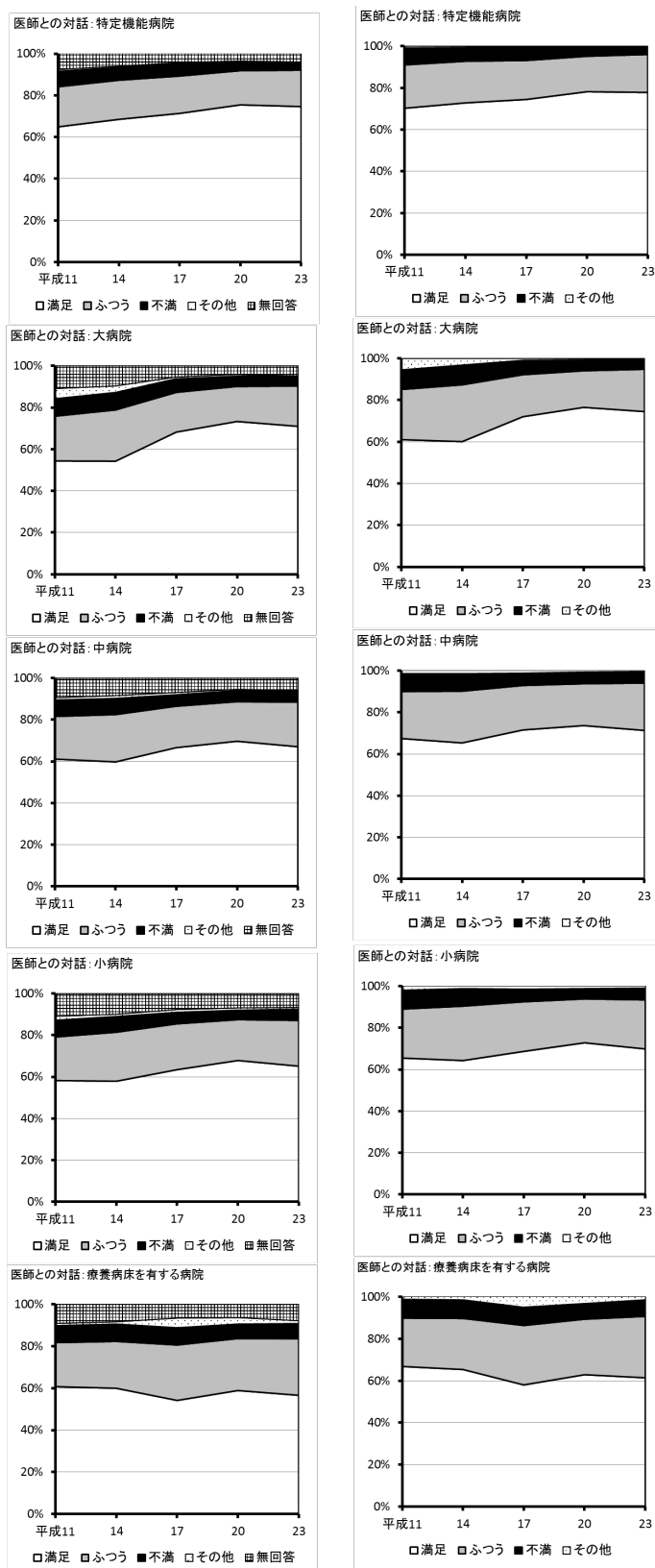
満足(非常に満足している、やや満足している)、ふつう(ふつう)、不満(やや不満である、非常に不満である)、その他(その他)の4カテゴリとし、無回答を加えたもの(左側)と除外したもの(右側)を作成した。

図7. 病院種別にみた入院患者における満足度の推移(医師による診察)



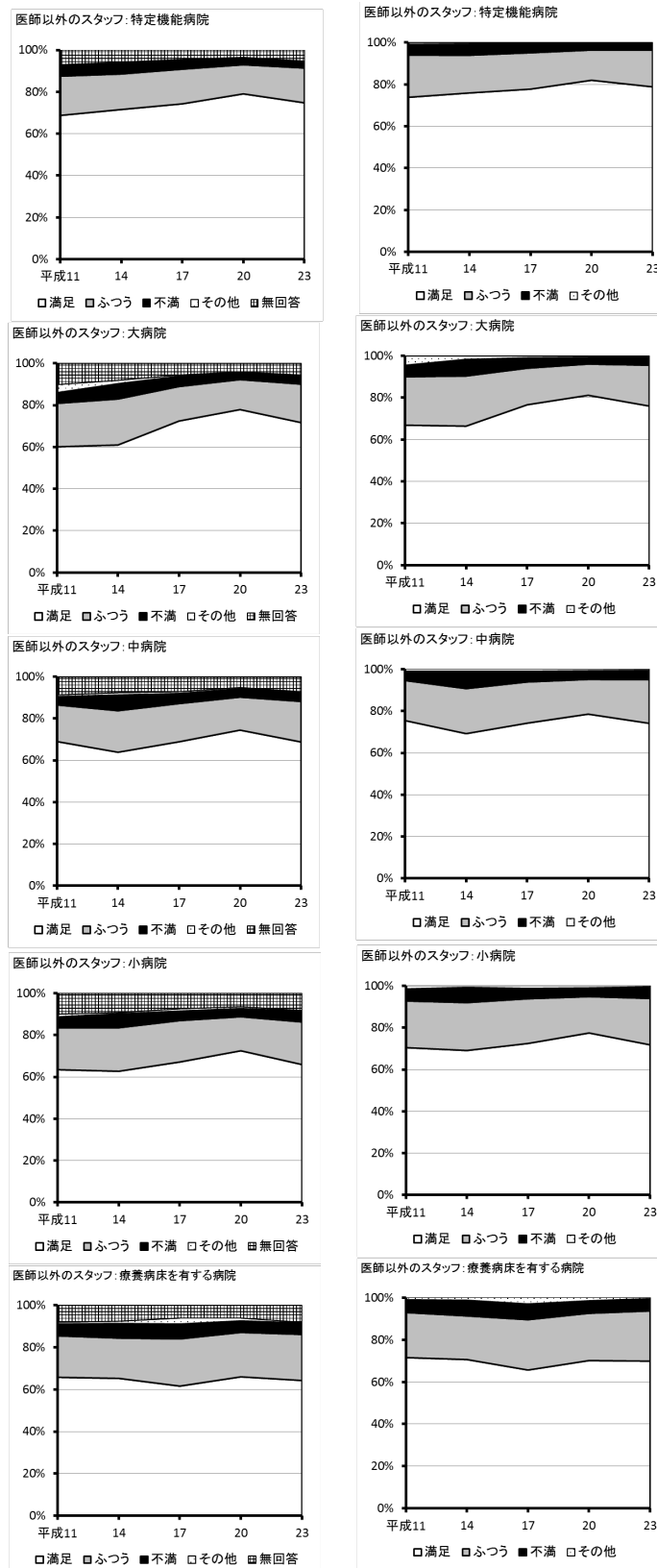
満足(非常に満足している、やや満足している)、ふつう(ふつう)、不満(やや不満である、非常に不満である)、その他(その他)の4カテゴリとし、無回答を加えたもの(左側)と除外したもの(右側)を作成した。

図8. 病院種別に応じた入院患者における満足度の推移(医師との対話)



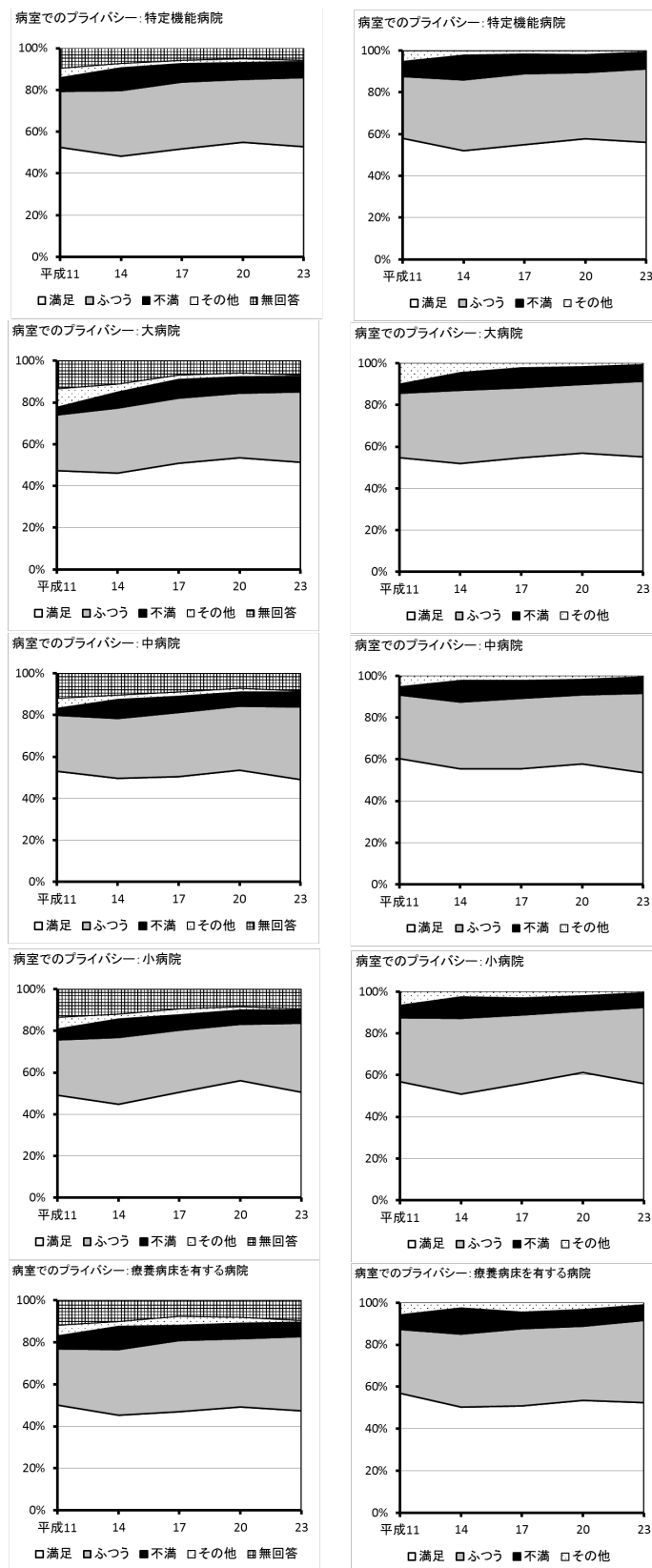
満足(非常に満足している、やや満足している)、ふつう(ふつう)、不満(やや不満である、非常に不満である)、その他(その他)の4カテゴリとし、無回答を加えたもの(左側)と除外したもの(右側)を作成した。

図9. 病院種別にみた入院患者における満足度の推移(医師以外のスタッフ)



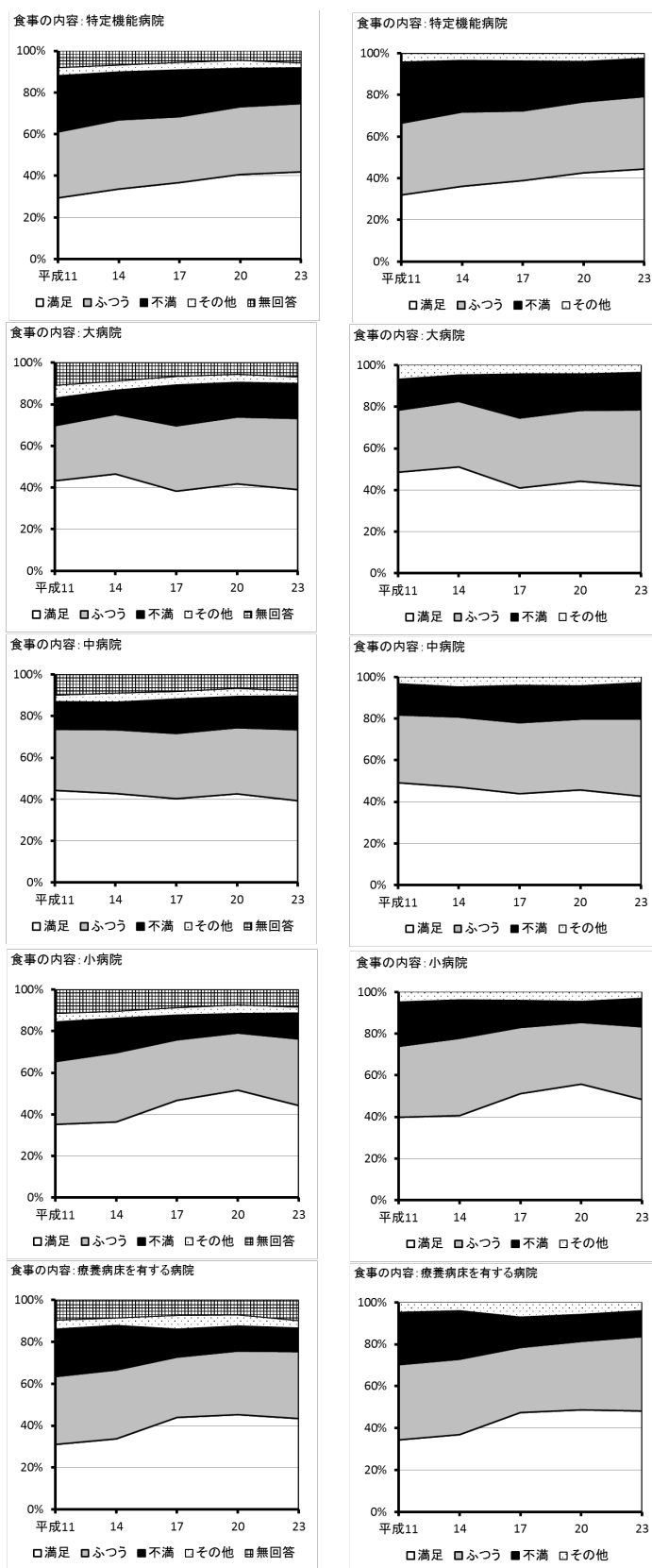
満足(非常に満足している、やや満足している)、ふつう(ふつう)、不満(やや不満である、非常に不満である)、その他(その他)の4カテゴリとし、無回答を加えたもの(左側)と除外したもの(右側)を作成

図 10 . 病院種別にみた入院患者における満足度の推移(病室でのプライバシー)



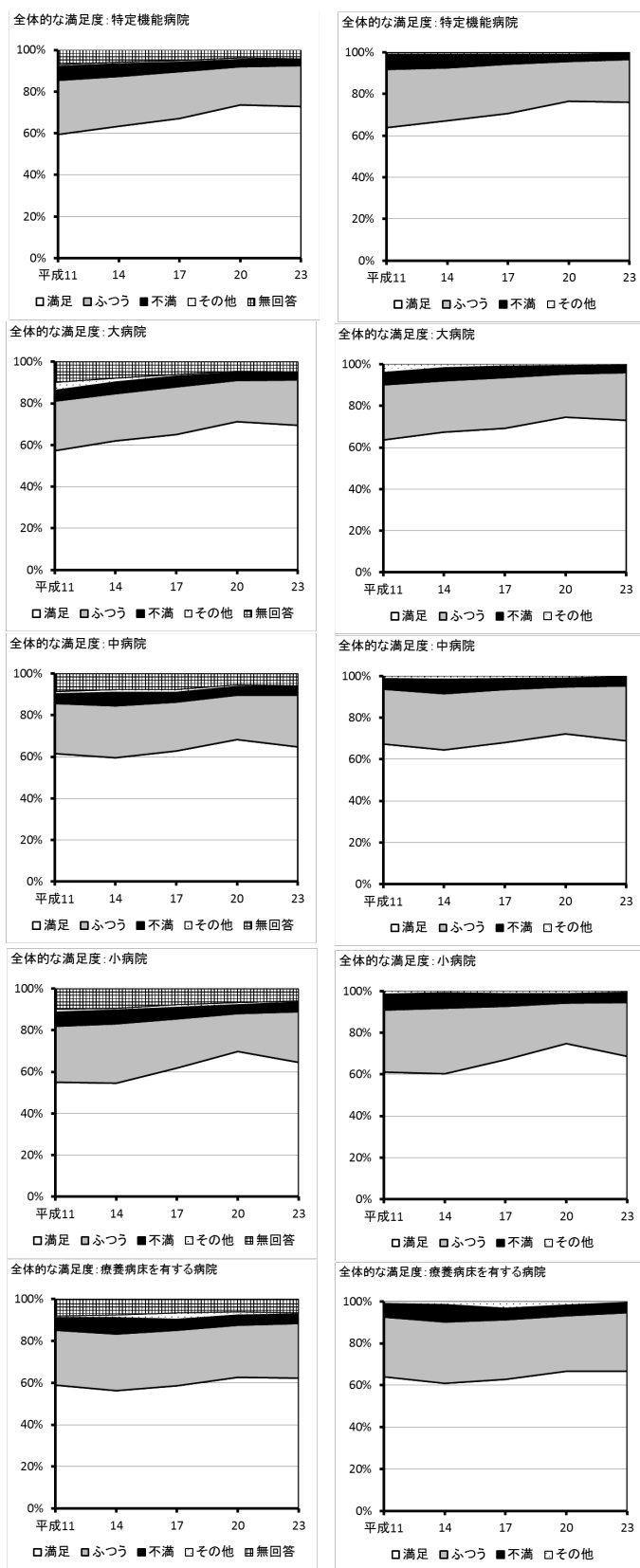
満足(非常に満足している、やや満足している)、ふつう(ふつう)、不満(やや不満である、非常に不満である)、その他(その他)の4カテゴリとし、無回答を加えたもの(左側)と除外したもの(右側)を作成した。

図 11 . 病院種別にみた入院患者における満足度の推移(食事の内容)



満足(非常に満足している、やや満足している)、ふつう(ふつう)、不満(やや不満である、非常に不満である)、その他(その他)の4カテゴリとし、無回答を加えたもの(左側)と除外したもの(右側)を作成した。

図 12 . 病院種別に見た入院患者における満足度の推移(全体的な満足度)



満足(非常に満足している、やや満足している)、ふつう(ふつう)、不満(やや不満である、非常に不満である)、その他(その他)の4カテゴリとし、無回答を加えたもの(左側)と除外したもの(右側)を作成した。

厚生労働科学研究費補助金（政策科学総合研究事業（統計情報総合研究））
分担研究報告書

受療行動調査における患者満足度に影響する医療施設調査の項目の探索

研究代表者 村上 義孝 滋賀医科大学社会医学講座医療統計学部門准教授
研究分担者 松山 裕 東京大学大学院情報学環・学際情報学府准教授
研究協力者 柏原 康佑 東京大学大学院医学系研究科公共健康医学専攻助教

研究要旨 研究班の初年度として、受療行動調査・患者調査・医療施設調査を統計法第33条に基づき申請により入手・突合し、患者満足度に影響する医療施設調査の項目の探索を実施した。その結果、病院種別、開設者、受動喫煙防止対策、医療安全体制(全般)、研修の実施状況などで全体的な満足度にカテゴリ間の差異がみられた。

A．研究目的

本研究テーマが目標とするところは、受療行動調査に対し、患者調査、医療施設調査を突合したデータセットから、患者の満足度に影響を与える医療施設特性を探索し、その影響の大きさ(施設間差)を評価することである。

初年度にあたる今年度は、受療行動調査・患者調査・医療施設調査を統計法第33条に基づき申請により入手・突合し、患者満足度に影響する医療施設調査の項目探索を実施したので報告する。

B．研究方法

本年度は患者満足度に影響を与える医療施設特性の探索を目的として、医療施設調査の項目と患者満足度との関連について検討した。患者満足度として「全体としてこの病院に満足していますか(以下、全体満足度)」を使用した。探索に用いた医療施設調査の調査項目は、(1)病院種別、(2)開設者、(3)医育機関、委託の状況((4)給食(患者用)、(5)滅菌(治療用具)、(6)保守点検業務(医療機器)、(7)検体検査、(8)保守点検業務(医療ガス供給設備)、(9)清掃、(10)患者の搬送)、(11)退院調整支援担当者、(12)受動喫煙防止対策、医療安全体制((13)医療安全体制(全般)、(14)院内感染防止対策、(15)医療機器安全管理、(16)医薬品安全管理、

(17)院内感染防止対策の専任担当者の状況、(18)院内感染防止対策のための施設内回診の頻度、医療機器安全体制の保守計画の管理((19)保守計画の作成、(20)保守計画の実施)、(21)患者相談担当者の配置の有無、在宅医療サービスの実施状況((22)医療保険等による在宅サービス実施の有無、(23)介護保険による在宅サービス実施の有無)、緩和ケアの状況((24)緩和ケア病棟の有無、(25)緩和ケアチームの有無)、新人看護職員研修の状況((26)新人看護職員、(27)研修の実施状況)の27項目であった。

検討方法として全体満足度を満足(非常に満足している、やや満足している)、ふつう(ふつう)、不満(やや不満である、非常に不満である)、その他(その他)の4カテゴリに分け、無回答は除外した上で、調査項目ごとに検討した。検討方法として、外来・入院別に満足割合(集団全体の中で満足に分類された人の割合)、不満足割合(集団全体の中で不満足に分類された人の割合)に着目し、カテゴリの割合の最大値、最小値から範囲を算出することで、カテゴリ間で回答(患者満足度)が大きくばらつく項目を探索した。便宜上、満足割合は7%以上、不満足割合は3%以上のものを回答が大きくばらつく項目と判定した。

解析データセットについては、平成23年受療行動調査基本集計(150,620 オブザベーション)

ン)を使用した。

(倫理面への配慮)

本研究では、既存の統計資料または連結不可能匿名化された情報を用いる。個人情報扱わないため、個人情報保護に関する問題は生じない。

C. 研究結果

図1に医療施設特性別にみた全体満足度の分布を外来・入院別に示した。病院規模では入院で特定機能病院、大、中、小病院、療養病床の順に満足割合が低下、不満割合が上昇する傾向がみられ、その差は満足割合で9.4%と大きく、不満割合で1.8%であった。開設者では外来で開設者が国のとき高い満足と低い不満が、反対に公的医療機関のとき低い満足と高い不満の傾向がみられ、その差は満足で10.4%、不満で2.8%であった。入院では満足・不満割合はともに開設者が国・その他のとき高い満足と低い不満が、医療法人・個人で低い満足と高い不満の傾向がみられ、その差は満足で7.6%、不満では2.1%であった。

このように医療施設特性別の検討ではいくつかの項目でカテゴリ間に満足・不満割合に違いがみられる。これらカテゴリ間で割合に差異がみられる/みられない項目を示す目的で、表1に医療施設調査項目別に満足、不満割合の範囲を外来、入院別にまとめた。満足割合に差がみられた項目として、病院種別(入院、外来)、開設者(入院、外来)、医育機関(入院)、委託(給食)(入院)、委託(滅菌)(入院)、委託(保守・医療機器)(入院)、委託(検体検査)(入院)、受動喫煙防止対策(外来)、医療安全体制(全般)(外来)、院内感染施設内回診(外来)、緩和ケア病棟の有無(外来)、研修の実施状況(入院、外来)であった。不満割合に差がみられた項目として、委託(給食)(入院)、受動喫煙防止対策(外来)、医療安全体制(全般)(入院)、研修の実施状況(入院)であった。

D. 考察

受療行動調査における患者の満足度に影響を与える医療施設特性を探索し、その影響の大きさ(施設間差)を評価するために、初年度の本年度は、受療行動調査・患者調査・医療施設調査を統計法第33条に基づく申請により入手・突合し、患者満足度に影響する医療施設調査の項目を探索した。その結果、いくつかの項目で全体的な満足度の分布に違いがみられた。病院種別、開設者、医育機関の有無などでの満足度の違いは、医療施設規模と関連する医療施設特性によるところが大きいと思われる。これは他項目(受動喫煙防止対策、医療安全体制(全般)、研修の実施状況)でも同様であり、個々の医療施設特性の影響というより、その上流にある医療施設規模・機能によるところが大きいと推察される。今回の検討で医療施設特性の違い、すなわち施設間差が患者満足度に与える影響は無視できないことが明らかになった。次年度以降、施設間差の規定要因の同定とその大きさの評価などを進めていく予定である。

E. 結論

受療行動調査・患者調査・医療施設調査を突合したデータを用い、患者満足度に影響する医療施設調査項目を探索した。その結果、全体的な満足度で、分布に違いがある項目がみられた。

F. 健康危機情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況(予定を含む)

1．特許取得

なし

2．実用新案登録

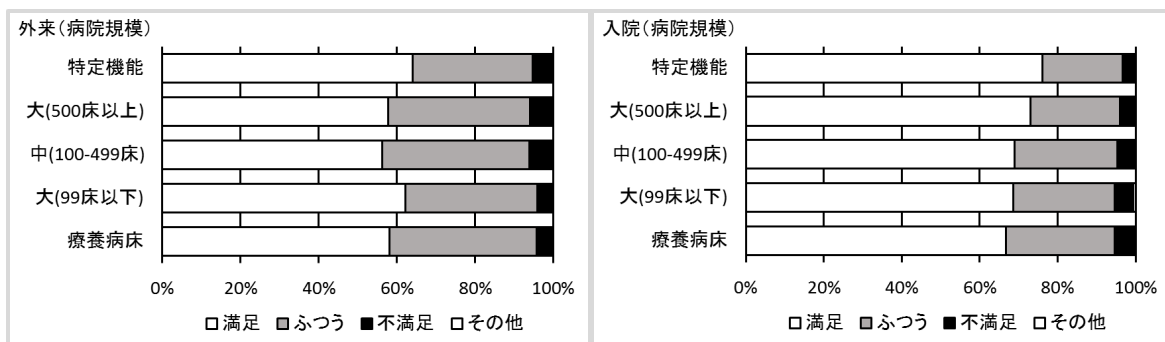
なし

3．その他

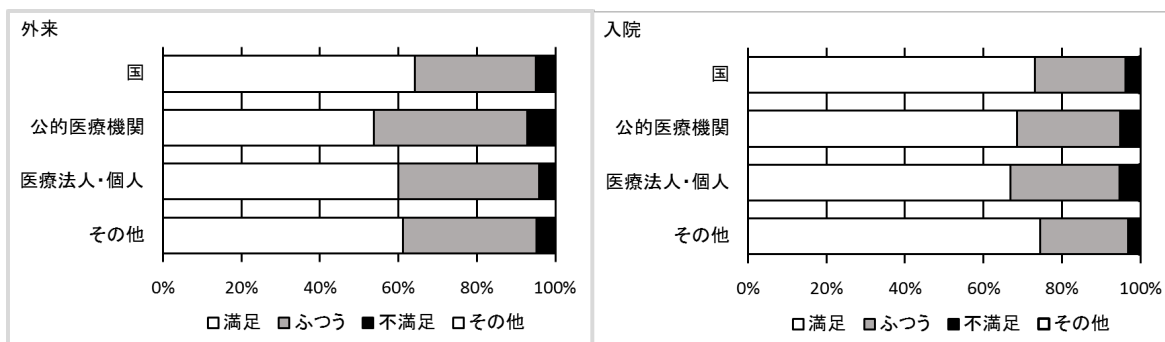
なし

図1. 医療施設特性別にみた全体満足度の分布

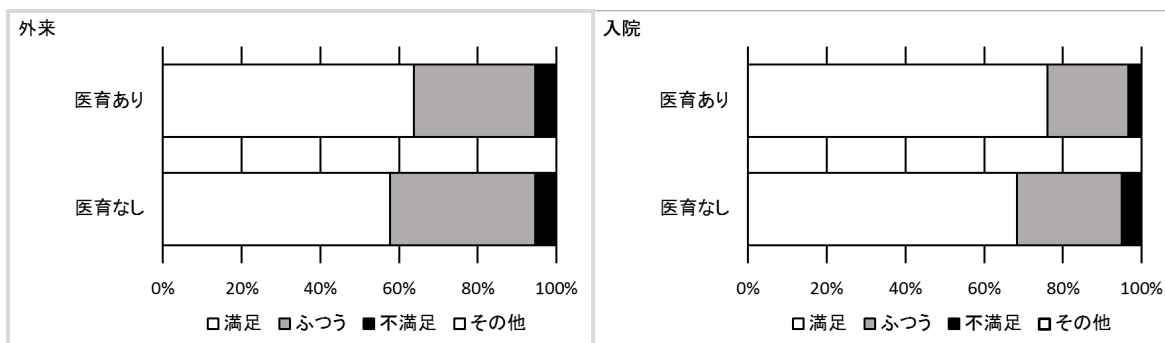
(1) 病院種別



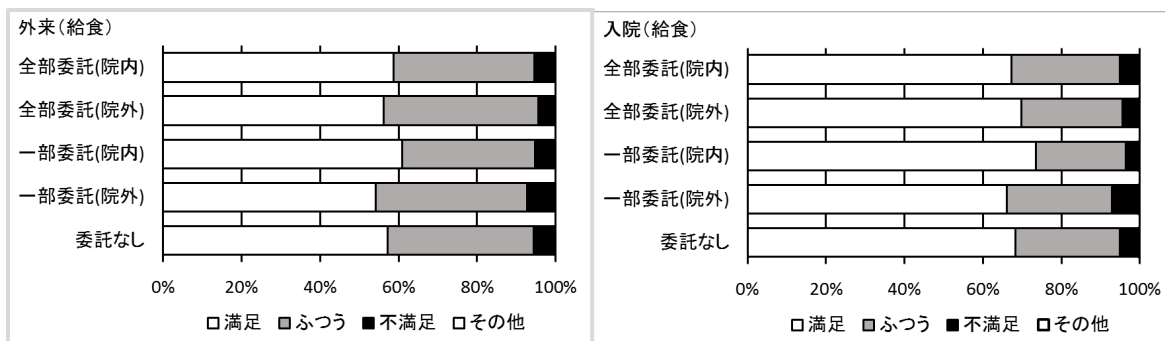
(2) 開設者



(3) 医育機関別

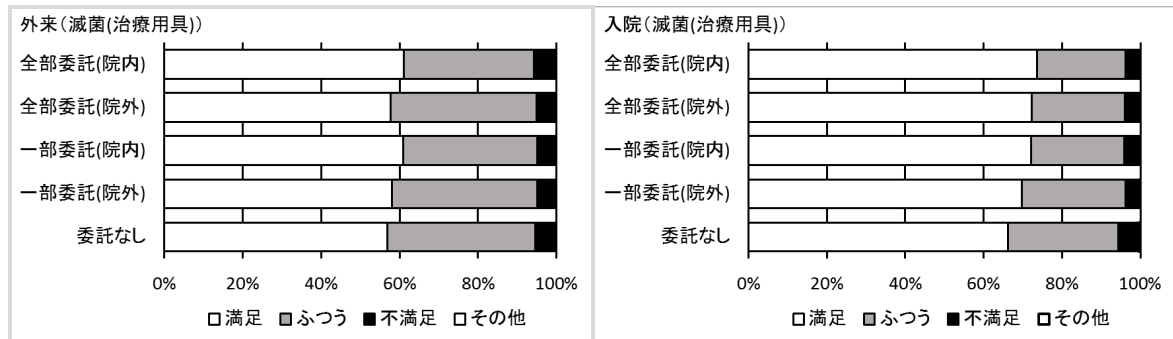


(4) 委託(給食)

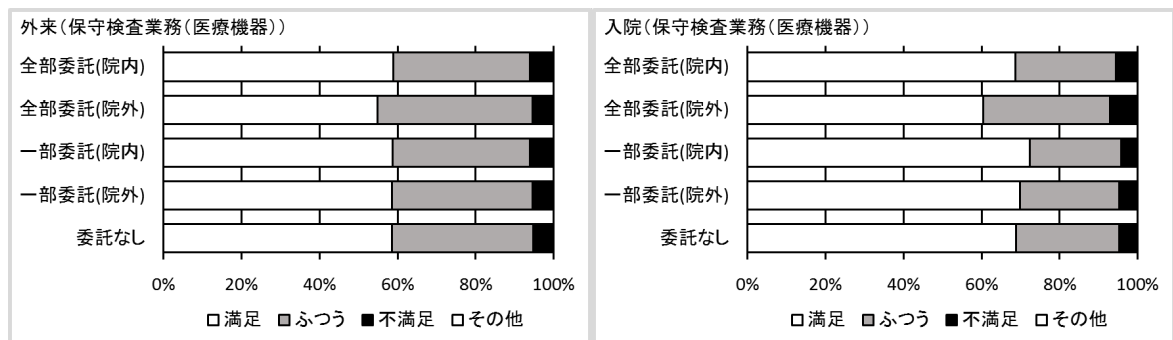


(図1 続き)

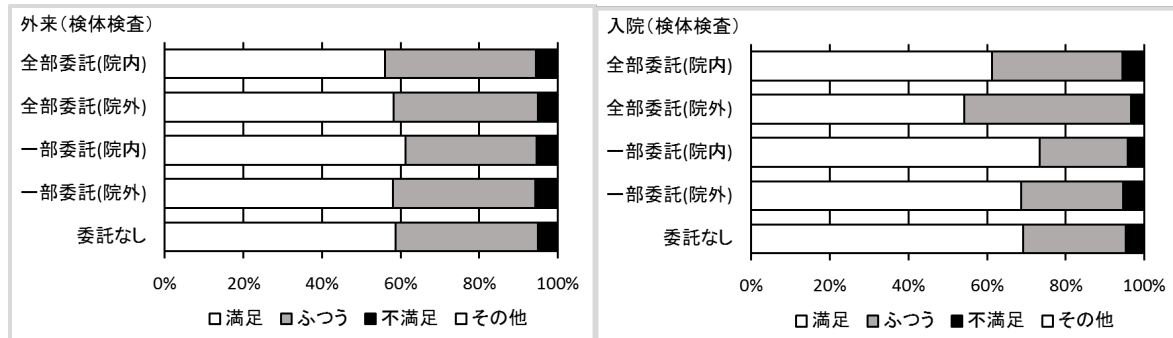
(5) 委託(滅菌(治療用具))



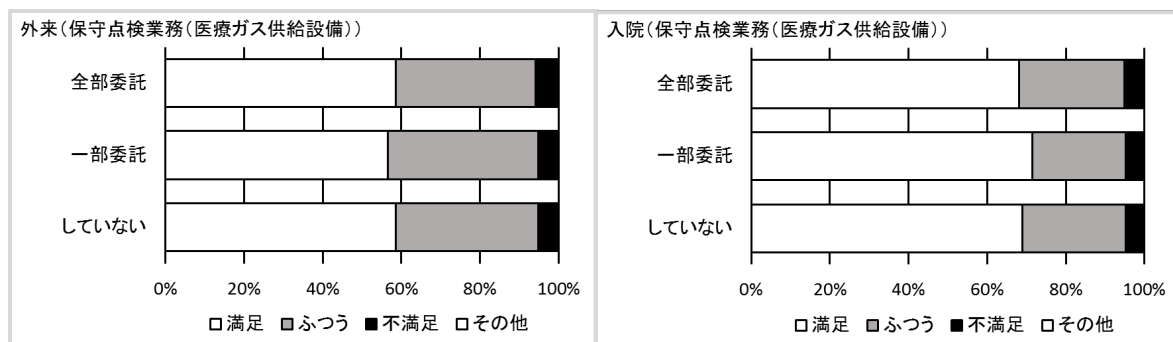
(6) 保守検査業務(医療機器)



(7) 検体検査

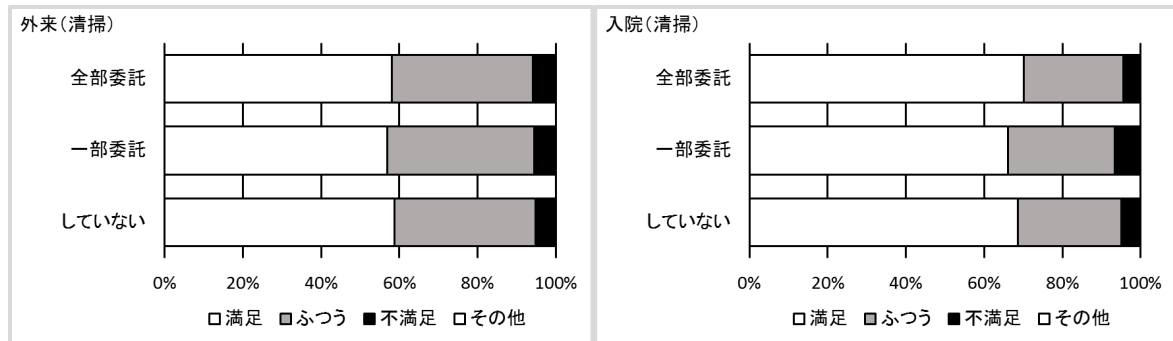


(8) 保守点検業務(医療ガス供給設備)

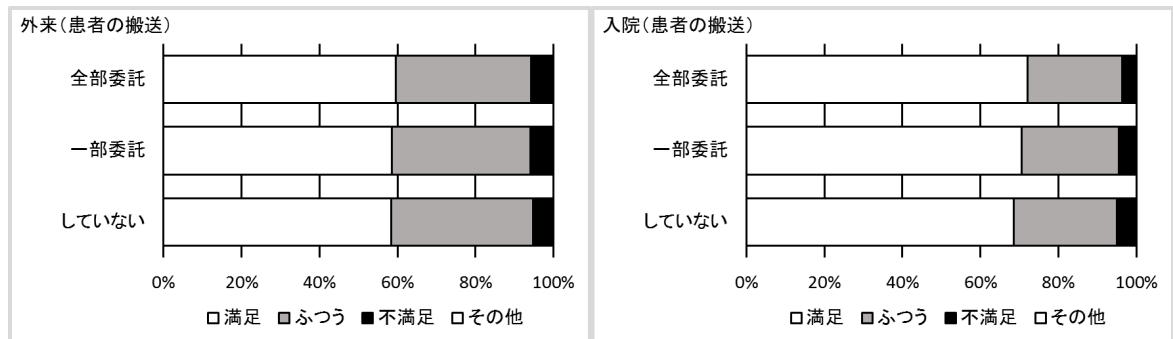


(図1 続き)

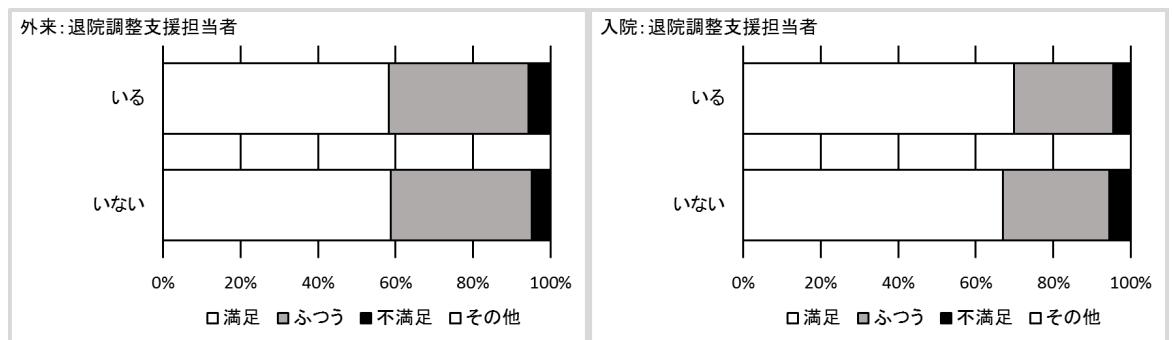
(9) 清掃



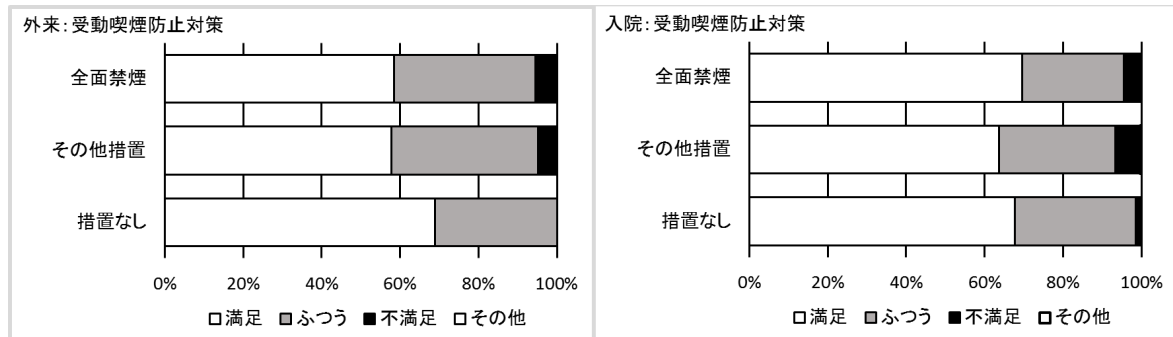
(10) 患者の搬送



(11) 退院調整支援担当者

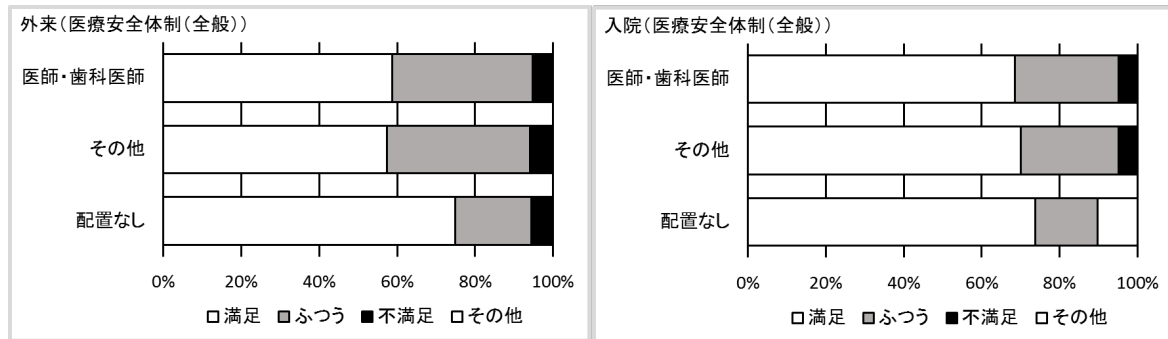


(12) 受動喫煙防止対策

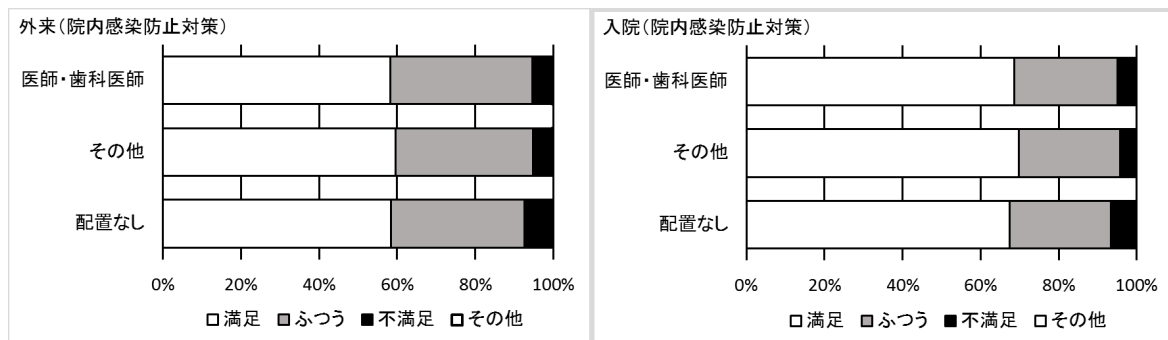


(図1 続き)

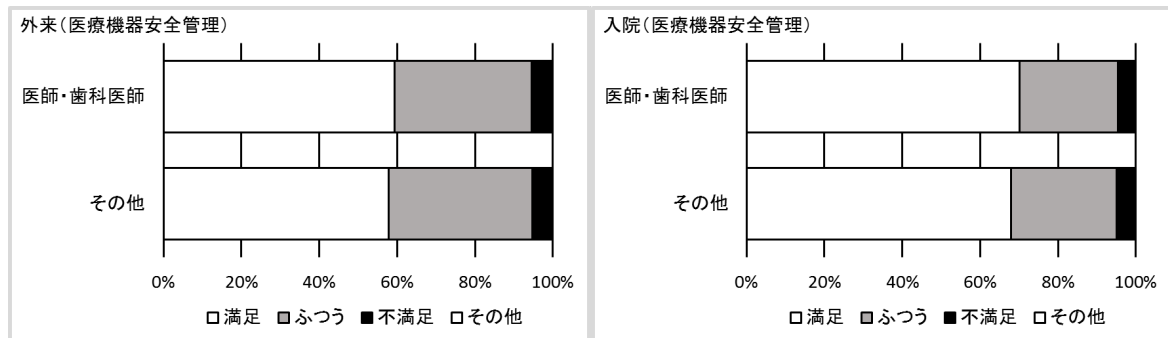
(13) 医療安全体制(全般)



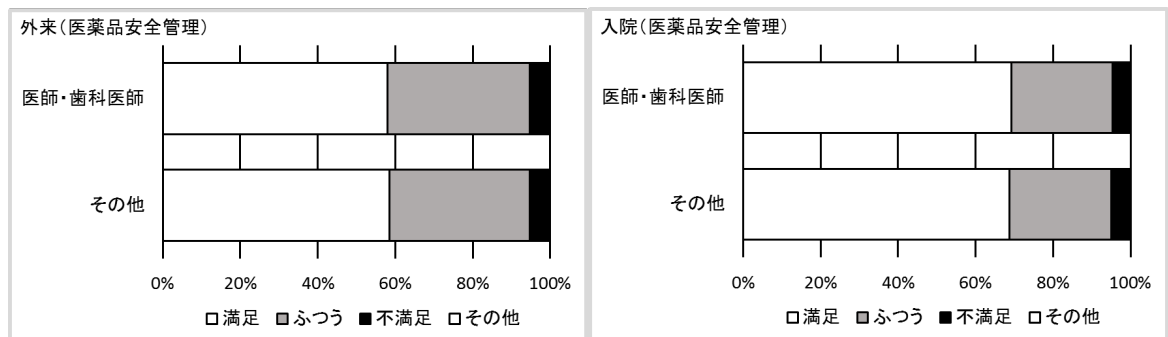
(14) 院内感染防止対策



(15) 医療機器安全管理

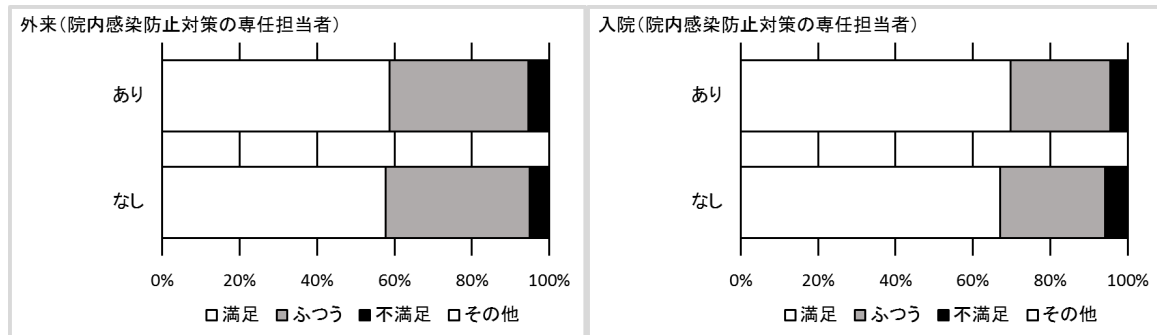


(16) 医薬品安全管理

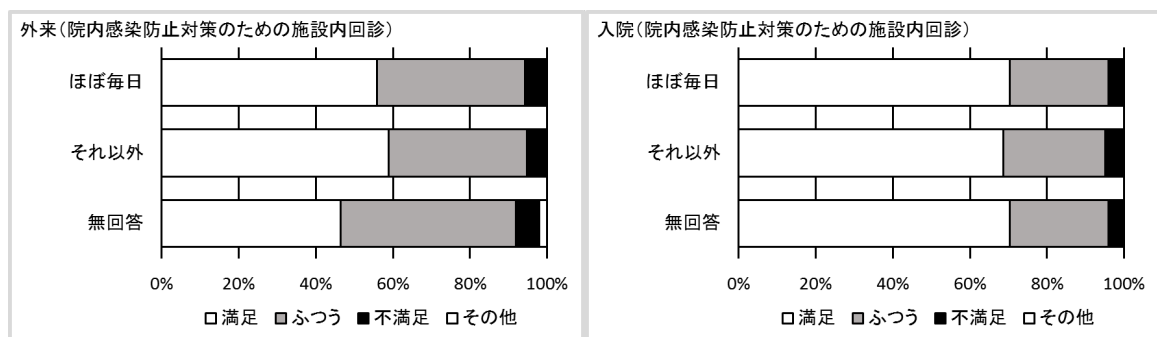


(図1 続き)

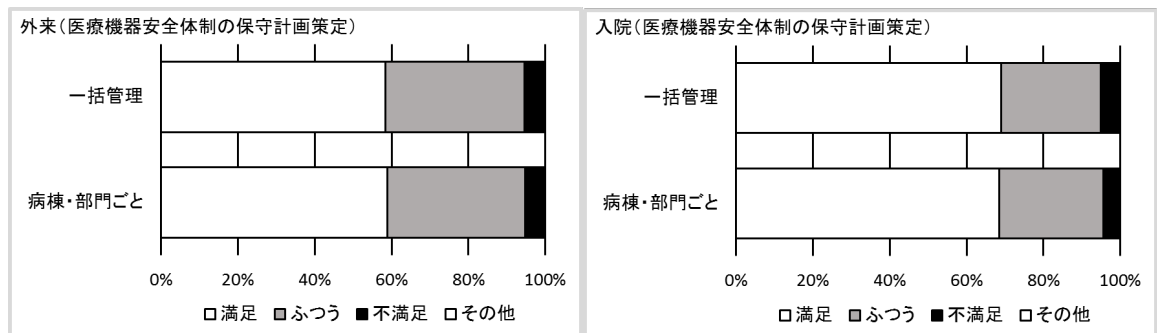
(17) 院内感染防止対策の専任担当者



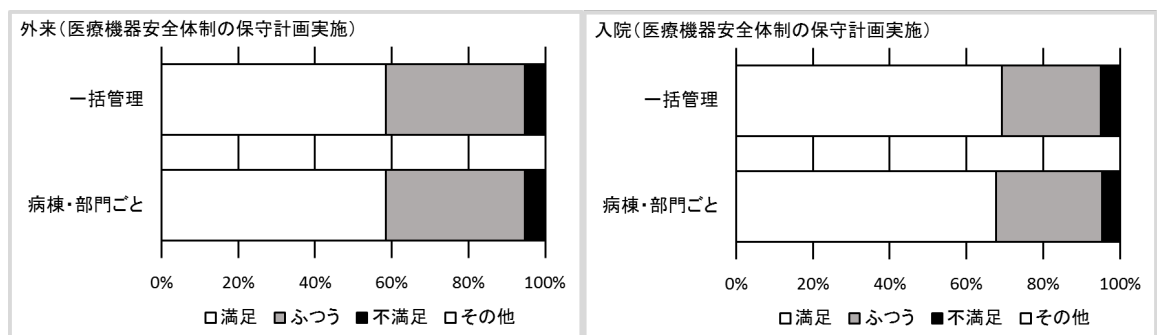
(18) 院内感染防止対策のための施設内回診



(19) 医療機器安全体制の保守計画策定

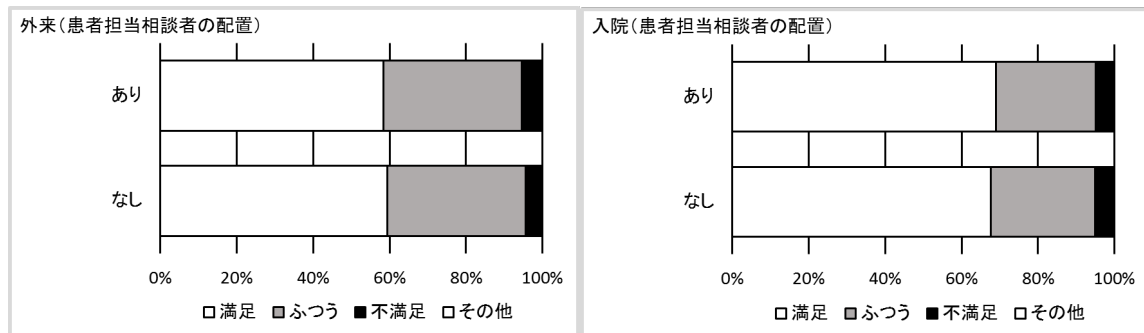


(20) 医療機器安全体制の保守計画実施

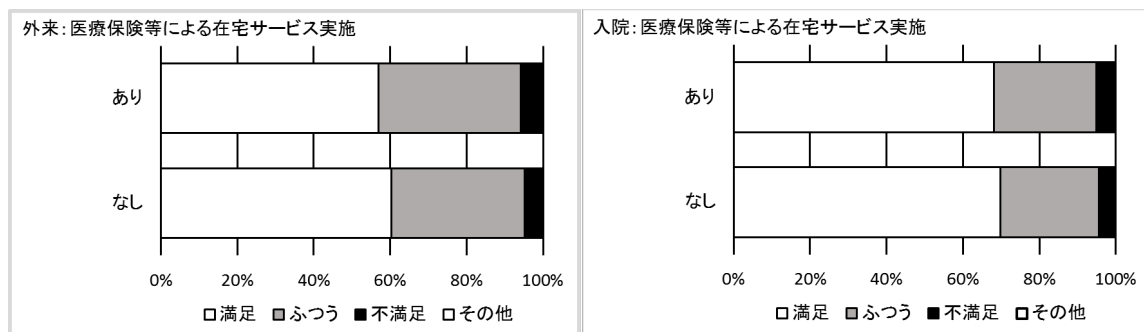


(図1 続き)

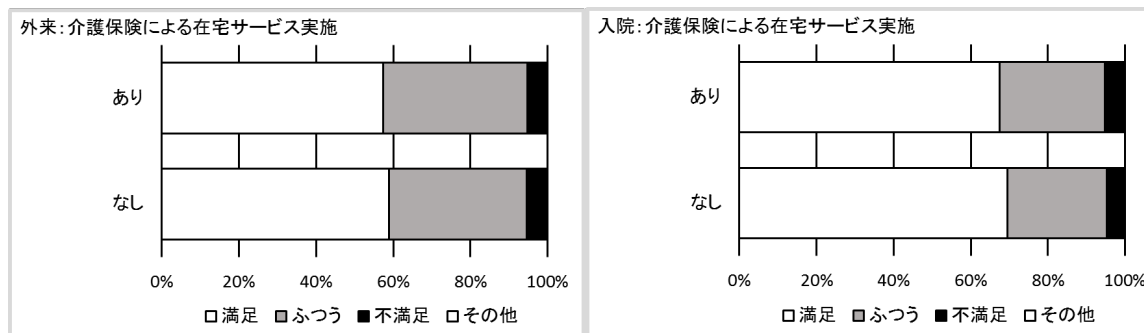
(21)患者担当相談者の配置



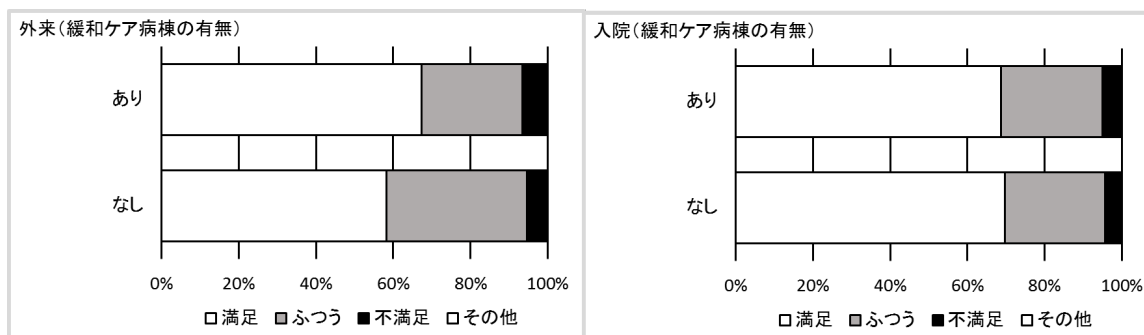
(22)医療保険等による在宅サービス実施



(23)介護保険による在宅サービス実施

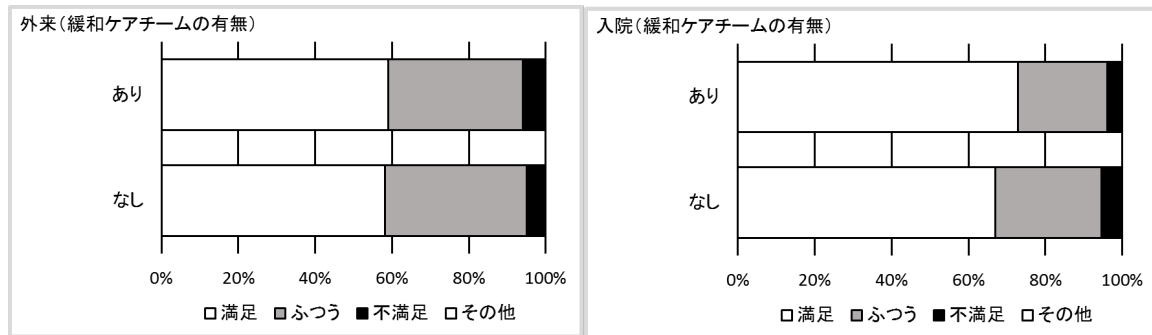


(24)緩和ケア病棟の有無

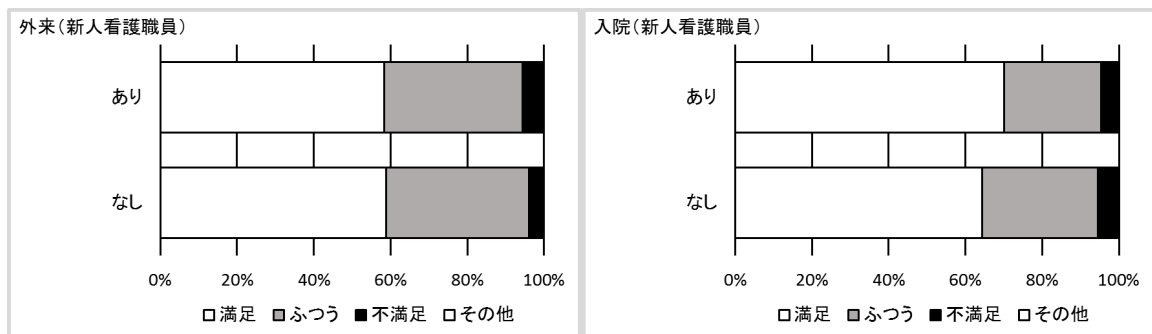


(図1 続き)

(25) 緩和ケアチームの有無



(26) 新人看護職員



(27) 研修の実施状況

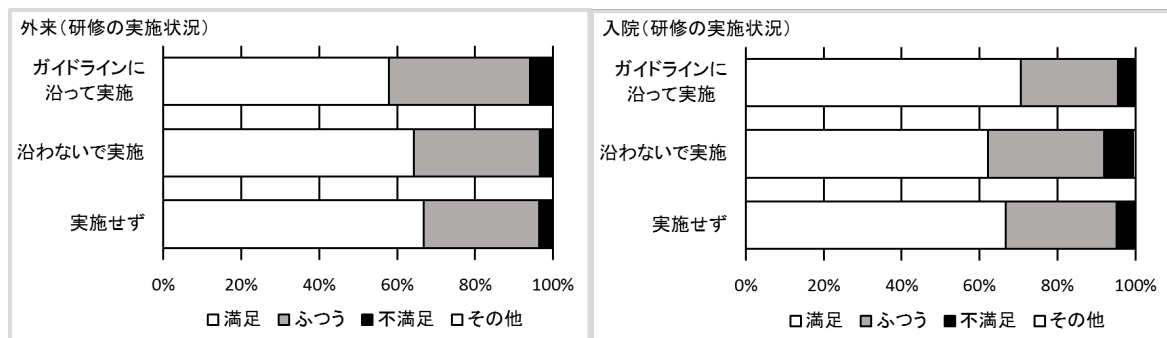


表1 . 医療施設特性別、全体満足度のカテゴリ間のばらつき

		カテゴリ間の範囲	
		満足	不満
病院種別	入院	9.4	1.8
	外来	7.8	2.2
開設者	入院	7.6	2.1
	外来	10.4	2.8
医育機関	入院	7.8	1.6
	外来	6.0	0.1
委託(給食)	入院	7.4	3.5
	外来	6.7	2.4
委託(滅菌)	入院	7.5	1.7
	外来	4.2	0.8
委託(保守・医療機器)	入院	12.1	2.9
	外来	4.0	0.9
委託(検体検査)	入院	19.3	2.2
	外来	5.2	0.7
委託(保守・医療ガス)	入院	3.5	0.4
	外来	2.0	0.7
委託(清掃)	入院	3.9	2.3
	外来	1.9	0.7
委託(搬送)	入院	3.4	1.2
	外来	1.2	0.6
退院調整支援担当者	入院	2.9	0.7
	外来	0.6	0.9
受動喫煙防止対策	入院	5.9	4.8
	外来	11.1	5.2
医療安全体制(全般)	入院	5.2	4.6
	外来	17.6	0.8
院内感染防止対策	入院	2.4	1.9
	外来	1.4	2.6

		カテゴリ間の範囲	
		満足	不満
医療機器安全管理	入院	2.1	0.4
	外来	1.4	0.0
医薬品安全管理	入院	0.5	0.4
	外来	0.6	0.2
院内感染専任担当者	入院	2.8	1.1
	外来	1.1	0.5
院内感染施設内回診	入院	1.7	1.0
	外来	12.4	1.1
保守計画策定	入院	0.6	0.5
	外来	0.6	0.2
保守計画実施	入院	1.7	0.4
	外来	0.1	0.1
患者担当相談者の配置	入院	1.3	0.1
	外来	1.1	1.1
医療保険等による 在宅サービス実施	入院	1.6	0.6
	外来	3.3	0.9
介護保険による 在宅サービス実施	入院	2.1	0.3
	外来	1.6	0.1
緩和ケア病棟の有無	入院	1.1	0.5
	外来	9.1	1.0
緩和ケアチームの有無	入院	5.8	1.4
	外来	0.8	0.9
新人看護職員	入院	5.7	0.8
	外来	0.5	1.7
研修の実施状況	入院	8.4	3.2
	外来	8.9	2.2

カテゴリ間の範囲：満足・不満足割合の最大値 最小値、満足割合について範囲が7%以上、不満足割合について範囲が3%以上のものは斜影で示した。

厚生労働科学研究費補助金（政策科学総合研究事業）
分担研究報告書

受療行動調査における心身の状態と満足度の疾患別分布および相互の関連についての研究

研究分担者 宮下光令 東北大学大学院医学系研究科保健学専攻緩和ケア看護学分野

研究要旨

平成 23 年受療行動調査における心身の状態と満足度の疾患別分布および相互の関連を検討した。分析した項目は入院・外来それぞれの心身の状態 5 項目および満足度 5 項目とした。入院 16,427 人、外来 29,272 人のデータを分析した。

「からだの苦痛がある」は入院の骨格筋系および結合組織の疾患（71%）、神経系の疾患（68%）、皮膚および皮下組織の疾患（65%）、感染症及び寄生虫症（63%）、呼吸器系の疾患（62%）の外来の骨格筋系および結合組織の疾患（75%）の回答割合が高かった。

「痛みがある」は入院の骨格筋系および結合組織の疾患（70%）、外来の骨格筋系および結合組織の疾患（77%）の回答割合が高かった。「気持ちがつらい」では入院の神経系の疾患（61%）、感染症及び寄生虫症（60%）、外来の精神および行動の疾患（63%）の回答割合が高かった。「医師による診療・治療内容に満足していますか」では外来の精神および行動の疾患（11%）で不満足割合がやや高かった。「医師との対話に満足していますか」では入院の皮膚および皮下組織の疾患（12%）、精神および行動の疾患（10%）で不満足割合がやや高かった。「痛みなどのからだの症状を和らげる対応に満足していますか」では入院の精神および行動の疾患（11%）、外来の精神および行動の疾患（11%）、骨格筋系および結合組織の疾患（11%）で不満足割合がやや高かった。「精神的なケアに満足していますか」では入院の神経系の疾患（13%）、内分泌、栄養および代謝疾患（11%）、精神および行動の疾患（10%）、皮膚および皮下組織の疾患（10%）、外来の精神および行動の疾患（13%）、尿路生殖器系の疾患（10%）で不満足割合がやや高かった。心身の状態の各項目と満足度の各項目の相関はほとんどなかった。

受療行動調査はわが国唯一の患者に直接尋ねる政府統計であり、病院・診療所を無作為抽出しているため、心身の状態や満足度に関してわが国の全国値を推定できる最も信頼できる方法である。心身の状態と満足度は関連がなかったが、これは平成 23 年度調査から心身の状態を組み入れることによって、より多方面から患者の状況を把握し医療を評価することが可能となったことを示している。患者の症状などの自己報告による評価（PRO: Patient Reported Outcomes）が世界的に求められていることから、心身の状態の把握は今後の医療の評価において重要なものとなる可能性がある。

来年度研究および今後の課題はそれぞれの疾患ごとに心身の状態・満足度と患者の背景要因との関連を探索すること、心身の状態・満足度と医療施設調査による施設情報との関連を分析することである。

A. 研究目的

平成23年受療行動調査における心身の状態と満足度の疾患別分布および相互の関連を検討する。

B. 研究方法

平成23年受療行動調査で患者調査と連結が可能であったデータを目的外使用にて取得し、分析した。

分析した項目は入院・外来それぞれの心身の状態5項目(からだの苦痛がある、痛みがある、気持ちがつらい、歩くのが大変だ、身の周りのことをするのに介助が必要だ)および満足度5項目(医師による診療・治療内容に満足していますか、医師との対話に満足していますか、医師以外の病院スタッフの対応に満足していますか、痛みなどのからだの症状を和らげる対応に満足していますか、精神的なケアに満足していますか)である。満足度の項目のうちこれら5項目を選択した理由は入院・外来双方でデータが収集されていること、および、これらの項目は病院や診療所のハード面の構造に依存せず、診療の質をより適切に反映しうる項目と考えたからである。

分析は各項目の分布を疾患別に算出した。疾患の分類はICD-10の大一桁のアルファベットに基づき以下のようにした「感染症及び寄生虫症」「悪性新生物」「良性新生物、血液及び造血器の疾患並びに免疫機能の障害」「内分泌、栄養および代謝疾患」「精神および行動の疾患」「神経系の疾患」「目および付属器の疾患、耳および乳様突起の疾患」「循環器系の疾患」「呼吸器系の疾患」「消化器系の疾患」「皮膚および皮下組織の疾患」「骨格筋系および結合組織の疾患」「尿路生殖器

系の疾患」「妊娠、分娩および産じょく」「周産期に発生した病態」。

分布を計算する際は提供された乗数で重みづけをして計算した。心身の状態では無回答は分母から省いて計算した。また、満足度では欠損および無回答およびその他は分母から省いて計算した。この理由は別の研究班の検討により受療行動調査における欠損は比較的ランダムに起こること、および、満足度でその他と回答した場合は「該当しない(この設問に回答することに適さない)」ケースが多いと考えられたからである。

分布を計算する際に心身の状態では「そう思う」「ややそう思う」の割合の合計を「そう思う(合計)」、満足度では「不満足である」「やや不満足である」を「不満足(合計)」として再掲した。本報告書ではわかりやすさのため、これらから(合計)という語を省き「そう思う」「不満足」としてそれぞれの合計の割合を記すこととする。

分析は各項目の分布を疾患別に算出した。疾患の分類はICD-10の大一桁のアルファベットに基づき以下のようにした「感染症及び寄生虫症」「悪性新生物」「良性新生物、血液及び造血器の疾患並びに免疫機能の障害」「内分泌、栄養および代謝疾患」「精神および行動の疾患」「神経系の疾患」「目および付属器の疾患、耳および乳様突起の疾患」「循環器系の疾患」「呼吸器系の疾患」「消化器系の疾患」「皮膚および皮下組織の疾患」「骨格筋系および結合組織の疾患」「尿路生殖器系の疾患」「妊娠、分娩および産じょく」「周産期に発生した病態」

また、全てのデータを用いて心身の状態と満足度の各項目の相関を Pearson の相関係数を用いて検討した。

(倫理面への配慮)

受療行動調査のデータの二次利用であるため特に倫理面での配慮は必要とされないが、データは厳密に管理した。

C. 結果

1. 分析対象者

入院 16,427 人、外来 29,272 人のデータを分析した。疾患別では「感染症及び寄生虫症(入院 390 人、外来 887 人)」「悪性新生物(入院 4772 人、外来 3877 人)」「良性新生物、血液及び造血器の疾患並びに免疫機能の障害(入院 708 人、外来 1467 人)」「内分泌、栄養および代謝疾患(入院 555 人、外来 2580 人)」「精神および行動の疾患(入院 517 人、外来 840 人)」「神経系の疾患(入院 585 人、外来 1160 人)」「目および付属器の疾患、耳および乳様突起の疾患(入院 556 人、外来 1800 人)」「循環器系の疾患(入院 2576 人、外来 4605 人)」「呼吸器系の疾患(入院 1112 人、外来 1725 人)」「消化器系の疾患(入院 1551 人、外来 2370 人)」「皮膚および皮下組織の疾患(入院 299 人、外来 1031 人)」「骨格筋系および結合組織の疾患(入院 1445 人、外来 3538 人)」「尿路生殖器系の疾患(入院 666 人、外来 2089 人)」「妊娠、分娩および産じょく(入院 539 人、外来 110 人)」「周産期に発生した病態(入院 159 人、外来 1193 人)」であった。

心身の状態(1)「からだの苦痛がある」の分布を表1に示す。入院でそう思うが50%以上だったのは骨格筋系および結合組織の疾患(71%)、神経系の疾患(68%)、皮膚および皮下組織の疾患(65%)、感染症及び寄生虫症(63%)、呼吸器系の疾患(62%)、悪性新生物(58%)、循環器系の疾患(58%)、

尿路生殖器系の疾患(55%)、消化器系の疾患(54%)、周産期に発生した病態(54%)、精神および行動の疾患(53%)、内分泌、栄養および代謝疾患(51%)、良性新生物、血液及び造血器の疾患並びに免疫機能の障害(50%)とほとんどの疾患であった。外来で50%以上だったのは骨格筋系および結合組織の疾患(75%)だった。

心身の状態(2)「痛みがある」の分布を表2に示す。入院でそう思うが50%以上だったのは骨格筋系および結合組織の疾患(70%)、神経系の疾患(57%)、感染症及び寄生虫症(53%)、皮膚および皮下組織の疾患(53%)だった。外来で50%以上だったのは骨格筋系および結合組織の疾患(77%)だった。

心身の状態(3)「気持ちがつらい」の分布を表3に示す。入院でそう思うが50%以上だったのは神経系の疾患(61%)、感染症及び寄生虫症(60%)、尿路生殖器系の疾患(55%)、循環器系の疾患(54%)、呼吸器系の疾患(54%)、精神および行動の疾患(52%)、悪性新生物(51%)であった。外来で50%以上だったのは精神および行動の疾患(63%)であった。

心身の状態(4)「歩くのが大変だ」の分布を表4に示す。入院でそう思うが50%以上だったのは神経系の疾患(80%)、骨格筋系および結合組織の疾患(78%)、皮膚および皮下組織の疾患(70%)、尿路生殖器系の疾患(69%)、呼吸器系の疾患(68%)、内分泌、栄養および代謝疾患(63%)、精神および行動の疾患(54%)、周産期に発生した病態(53%)、感染症及び寄生虫症(51%)だった。外来で50%以上だったのは骨格筋系および結合組織の疾患(54%)だった。

心身の状態(5)「身の周りのことをする

のに介助が必要だ」の分布を表5に示す。入院でそう思うが50%以上だったのは神経系の疾患(78%)、呼吸器系の疾患(65%)、皮膚および皮下組織の疾患(62%)、尿路生殖器系の疾患(61%)、骨格筋系および結合組織の疾患(52%)、精神および行動の疾患(51%)だった。外来で50%以上だったのものはなかった。

満足度(1)「医師による診療・治療内容に満足していますか」の分布を表6に示す。入院で不満足が10%以上だったのものはなかった。外来で10%以上だったのものは精神および行動の疾患(11%)だった。

満足度(2)「医師との対話に満足していますか」の分布を表7に示す。入院で不満足が10%以上だったのものは皮膚および皮下組織の疾患(12%)、精神および行動の疾患(10%)だった。外来で10%以上だったのものはなかった。

満足度(3)「医師以外の病院スタッフの対応に満足していますか」の分布を表8に示す。入院・外来ともに不満足が10%以上だったのものはなかった。

満足度(4)「痛みなどのからだの症状を和らげる対応に満足していますか」の分布を表9に示す。入院で不満足が10%以上だったのものは精神および行動の疾患(11%)だった。外来で10%以上だったのものは精神および行動の疾患(11%)、骨格筋系および結合組織の疾患(11%)だった。

満足度(5)「精神的なケアに満足していますか」の分布を表10に示す。入院で不満足が10%以上だったのものは神経系の疾患(13%)、内分泌・栄養および代謝疾患(11%)、精神および行動の疾患(10%)、皮膚および皮下組織の疾患(10%)だった。外来で10%

以上だったのものは精神および行動の疾患(13%)、尿路生殖器系の疾患(10%)だった。

心身の状態と満足度の各項目の相関を表11に示す。心身の状態および満足度はそれらの中ではお互いに中程度～高度の相関があったが、心身の状態の各項目と満足度の各項目の相関はほとんどなかった。

D. 考察

受療行動調査の結果、わが国の入院患者・外来患者の心身の状態、満足度の疾患別の分布が明らかになった。受療行動調査はわが国唯一の患者に直接尋ねる政府統計であり、病院・診療所を無作為抽出しているため、心身の状態や満足度に関してわが国の全国値を推定できる最も信頼できる方法である。

「からだの苦痛」に関しては入院では、ほぼ全ての疾患で苦痛があるという回答が50%を以上であった。からだの苦痛や痛みは骨格筋系および結合組織の疾患、神経系の疾患で高い傾向にあった。痛みをはじめとしたからだの苦痛の緩和は疾患に限らず十分とは言えない状況であることが推察された。

気持ちのつらさに関しても入院ではほぼ全ての疾患で50%の回答がみられた。入院患者の気持ちのつらさに対するより一層の支援が必要である。

歩くのが大変だ、身の周りのことをするのに介助が必要だ、の項目に関しては年齢を考慮した分析を追加する必要がある。

満足度に関しては全体的に不満足という回答が10%を超えるものはほとんどなく、全体として入院・外来患者は医療に満足していると考えられた。不満足が10%を超えた項目および疾患に関しては不満足の内容をより具体

的に調査し、医師や他の医療スタッフが対処する必要があるかもしれない。

心身の状態と満足度は関連がなかったが、これは平成23年度調査から心身の状態を組み入れることによって、より多方面から患者の状況を把握し医療を評価することが可能となったことを示している。医療の評価に満足度を使用することは以前から批判があり、今回取得した心身の状態のような患者の自己報告による評価(PRO: Patient Reported Outcomes) が世界的に求められていることから、心身の状態の把握は今後の医療の評価において重要なものとなる可能性がある。

来年度研究および今後の課題はそれぞれの疾患ごとに心身の状態・満足度と患者の背景要因との関連を探索すること、心身の状態・満足度と医療施設調査による施設情報との関連を分析すること、心身の状態と満足度のかい離の理由を探索することなどである。

E. 結論

受療行動調査の結果、わが国の入院患者・外来患者の心身の状態、満足度の疾患別の分布が明らかになった。

F. 健康危険情報

特になし

G. 研究発表

宮下光令, 加藤雅志, 清水恵, 森田達也, 佐藤一樹, 藤澤大介. 日本のがん患者のQOL: 受療行動調査を用いた全国調査. 日本臨床腫瘍学会(仙台) . 2013/8/29 .

宮下光令, 加藤雅志, 清水恵, 佐藤一樹, 藤澤大介, 森田達也. 全国のがん患者のQuality

of Life: 平成23年度受療行動調査と一般市民の比較. 日本癌治療学会(京都) . 2013/10/24 .

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

1. 特許取得

特になし

2. 実用新案登録

特になし

3. その他

特になし

表1 【心身の状態(1)】 からだの苦痛がある (数字は%)

【入院】

	そう思う	ややそう 思う	どちらとも いえない	あまりそう 思わない	そう思わ ない	そう思うの 合計(*)
感染症及び寄生虫症	41.5	22.0	6.6	12.5	17.4	63.4
悪性新生物	32.5	23.2	9.6	18.4	16.4	55.7
良性新生物、血液及び造血器の 疾患並びに免疫機能の障害	25.9	24.2	8.8	17.8	23.2	50.1
内分泌、栄養および代謝疾患	28.0	22.6	12.0	12.8	24.6	50.6
精神および行動の疾患	31.3	21.7	15.6	10.1	21.3	53.0
神経系の疾患	43.8	23.7	10.5	8.4	13.6	67.5
目および付属器の疾患、耳および 乳様突起の疾患	19.5	16.2	7.4	18.3	38.6	35.7
循環器系の疾患	34.4	23.1	13.4	13.1	16.0	57.5
呼吸器系の疾患	36.9	25.3	12.4	12.0	13.5	62.1
消化器系の疾患	30.3	23.6	8.6	17.9	19.6	53.9
皮膚および皮下組織の疾患	36.8	28.1	10.4	12.2	12.5	64.9
骨格筋系および結合組織の疾患	45.0	26.1	8.9	11.8	8.2	71.1
尿路生殖器系の疾患	33.9	21.6	12.1	13.0	19.5	55.4
妊娠、分娩および産じょく	11.3	32.1	16.0	19.9	20.7	43.4
周産期に発生した病態	34.4	19.9	15.3	10.0	20.4	54.4

【外来】

	そう思う	ややそう 思う	どちらとも いえない	あまりそう 思わない	そう思わ ない	そう思うの 合計(*)
感染症及び寄生虫症	20.3	21.9	9.2	16.8	31.8	42.2
悪性新生物	16.1	19.3	7.9	17.1	39.6	35.4
良性新生物、血液及び造血器の 疾患並びに免疫機能の障害	12.0	16.7	7.4	14.7	49.3	28.6
内分泌、栄養および代謝疾患	15.4	15.7	7.9	16.2	44.9	31.0
精神および行動の疾患	23.5	21.5	11.8	14.8	28.4	45.1
神経系の疾患	27.5	21.3	9.1	13.5	28.7	48.8
目および付属器の疾患、耳および 乳様突起の疾患	17.0	17.1	8.3	14.1	43.5	34.1
循環器系の疾患	20.6	19.7	8.2	16.9	34.6	40.3
呼吸器系の疾患	23.9	23.0	8.4	13.0	31.7	46.9
消化器系の疾患	19.1	18.9	7.6	15.4	39.0	38.0
皮膚および皮下組織の疾患	19.6	26.2	7.5	11.2	35.5	45.8
骨格筋系および結合組織の疾患	47.0	27.9	6.6	8.7	9.8	74.9
尿路生殖器系の疾患	16.4	20.4	9.0	14.9	39.3	36.9
妊娠、分娩および産じょく	1.2	17.7	14.1	21.3	45.7	18.9
周産期に発生した病態	8.5	13.0	6.5	13.3	58.7	21.5

(*)「そう思う」と「ややそう思う」の割合の合計

表2 【心身の状態(2)】 痛みがある (数字は%)

【入院】

	そう思う	ややそう 思う	どちらとも いえない	あまりそう 思わない	そう思わ ない	そう思うの 合計(*)
感染症及び寄生虫症	33.1	20.0	9.7	14.2	23.0	53.1
悪性新生物	25.1	22.5	9.4	17.0	26.0	47.6
良性新生物、血液及び造血器の 疾患並びに免疫機能の障害	20.8	25.5	4.6	17.2	32.0	46.3
内分泌、栄養および代謝疾患	28.3	15.1	11.1	12.4	33.0	43.5
精神および行動の疾患	20.6	23.8	15.0	8.3	32.3	44.4
神経系の疾患	32.4	24.7	13.5	8.7	20.7	57.1
目および付属器の疾患、耳および 乳様突起の疾患	13.6	15.1	6.5	12.9	51.9	28.7
循環器系の疾患	27.9	19.6	11.4	14.9	26.2	47.5
呼吸器系の疾患	27.1	22.5	14.9	11.4	24.1	49.6
消化器系の疾患	25.5	22.1	10.1	14.6	27.7	47.6
皮膚および皮下組織の疾患	33.7	18.9	11.6	17.7	18.2	52.5
骨格筋系および結合組織の疾患	48.0	21.9	7.4	9.4	13.4	69.8
尿路生殖器系の疾患	26.6	20.7	11.0	14.1	27.5	47.4
妊娠、分娩および産じょく	12.7	33.8	10.2	13.6	29.8	46.4
周産期に発生した病態	34.7	13.5	16.3	8.7	26.8	48.2

【外来】

	そう思う	ややそう 思う	どちらとも いえない	あまりそう 思わない	そう思わ ない	そう思うの 合計(*)
感染症及び寄生虫症	17.3	18.3	5.4	12.8	46.3	35.5
悪性新生物	12.6	15.4	6.6	13.4	52.0	28.0
良性新生物、血液及び造血器の 疾患並びに免疫機能の障害	10.0	14.1	5.8	9.4	60.7	24.1
内分泌、栄養および代謝疾患	13.1	12.3	5.3	10.0	59.3	25.4
精神および行動の疾患	15.8	17.4	10.5	14.2	42.1	33.1
神経系の疾患	23.4	18.0	6.6	11.5	40.6	41.3
目および付属器の疾患、耳および 乳様突起の疾患	12.7	12.1	6.1	11.4	57.7	24.8
循環器系の疾患	18.8	15.3	7.3	12.1	46.6	34.0
呼吸器系の疾患	16.4	15.4	9.3	11.6	47.4	31.7
消化器系の疾患	16.6	15.9	6.4	11.0	50.2	32.4
皮膚および皮下組織の疾患	14.6	19.0	7.5	8.9	50.0	33.6
骨格筋系および結合組織の疾患	53.9	22.7	5.5	5.5	12.5	76.5
尿路生殖器系の疾患	13.9	14.2	8.8	12.3	50.8	28.1
妊娠、分娩および産じょく	3.1	12.1	9.6	12.9	62.3	15.2
周産期に発生した病態	7.0	11.5	5.6	9.9	66.0	18.5

(*)「そう思う」と「ややそう思う」の割合の合計

表3 【心身の状態(3)】 気持ちがつらい (数字は%)

【入院】

	そう思う	ややそう 思う	どちらとも いえない	あまりそう 思わない	そう思わ ない	そう思うの 合計(*)
感染症及び寄生虫症	28.9	30.9	11.0	11.0	18.3	59.7
悪性新生物	27.4	23.4	13.9	14.2	21.2	50.7
良性新生物、血液及び造血器の 疾患並びに免疫機能の障害	18.6	18.4	13.2	19.1	30.7	37.1
内分泌、栄養および代謝疾患	22.2	21.9	17.0	12.8	26.0	44.1
精神および行動の疾患	30.2	21.5	13.9	13.6	20.7	51.7
神経系の疾患	38.0	23.6	17.6	8.6	12.2	61.6
目および付属器の疾患、耳および 乳様突起の疾患	10.3	14.2	12.5	11.4	51.6	24.5
循環器系の疾患	33.0	21.3	16.8	11.7	17.2	54.2
呼吸器系の疾患	29.2	25.0	17.9	11.8	16.1	54.2
消化器系の疾患	20.2	23.9	12.6	14.5	28.8	44.1
皮膚および皮下組織の疾患	23.5	25.6	14.1	14.5	22.4	49.1
骨格筋系および結合組織の疾患	24.2	24.0	15.4	13.5	22.8	48.3
尿路生殖器系の疾患	29.1	26.0	18.1	9.5	17.4	55.0
妊娠、分娩および産じょく	9.3	18.7	15.4	21.7	34.9	28.1
周産期に発生した病態	11.3	17.5	24.4	13.9	33.0	28.8

【外来】

	そう思う	ややそう 思う	どちらとも いえない	あまりそう 思わない	そう思わ ない	そう思うの 合計(*)
感染症及び寄生虫症	13.5	15.3	12.0	13.3	45.9	28.8
悪性新生物	12.0	18.6	11.8	15.0	42.5	30.6
良性新生物、血液及び造血器の 疾患並びに免疫機能の障害	8.7	13.0	10.0	14.2	54.1	21.7
内分泌、栄養および代謝疾患	7.6	12.9	10.3	14.0	55.2	20.4
精神および行動の疾患	35.8	27.1	11.2	9.0	17.0	62.9
神経系の疾患	19.5	22.2	12.9	10.9	34.5	41.7
目および付属器の疾患、耳および 乳様突起の疾患	10.2	15.0	12.0	10.3	52.6	25.2
循環器系の疾患	10.6	14.8	12.2	15.0	47.4	25.4
呼吸器系の疾患	9.9	17.4	12.0	12.7	48.0	27.3
消化器系の疾患	10.3	15.1	9.7	14.0	51.0	25.4
皮膚および皮下組織の疾患	10.0	17.5	9.5	13.4	49.5	27.6
骨格筋系および結合組織の疾患	17.0	22.9	14.6	15.0	30.5	39.9
尿路生殖器系の疾患	12.9	18.8	10.8	14.3	43.2	31.7
妊娠、分娩および産じょく	2.4	14.4	16.7	13.1	53.3	16.9
周産期に発生した病態	4.3	7.0	8.3	10.3	70.1	11.3

(*)「そう思う」と「ややそう思う」の割合の合計

表4 【心身の状態(4)】 歩くのが大変だ (数字は%)

【入院】

	そう思う	ややそう 思う	どちらとも いけない	あまりそう 思わない	そう思わ ない	そう思うの 合計(*)
感染症及び寄生虫症	37.0	13.9	8.8	11.7	28.6	50.9
悪性新生物	29.0	15.8	8.1	15.3	31.7	44.8
良性新生物、血液及び造血器の疾 患並びに免疫機能の障害	26.1	16.2	8.7	15.3	33.8	42.2
内分泌、栄養および代謝疾患	49.3	13.7	5.9	3.3	27.9	62.9
精神および行動の疾患	41.5	12.5	8.7	10.7	26.6	54.0
神経系の疾患	74.0	6.0	5.6	3.7	10.8	80.0
目および付属器の疾患、耳および 乳様突起の疾患	15.8	12.6	7.2	10.2	54.1	28.4
循環器系の疾患	61.9	13.6	5.7	6.2	12.5	75.5
呼吸器系の疾患	54.7	13.2	7.2	7.3	17.6	67.9
消化器系の疾患	28.3	16.1	7.0	13.7	34.9	44.4
皮膚および皮下組織の疾患	56.2	14.0	5.4	5.6	18.8	70.3
骨格筋系および結合組織の疾患	59.0	18.8	6.3	6.7	9.3	77.8
尿路生殖器系の疾患	52.5	16.3	4.3	7.8	19.1	68.8
妊娠、分娩および産じょく	10.1	24.4	15.7	16.2	33.6	34.5
周産期に発生した病態	33.9	18.8	13.4	9.5	24.5	52.7

【外来】

	そう思う	ややそう 思う	どちらとも いけない	あまりそう 思わない	そう思わ ない	そう思うの 合計(*)
感染症及び寄生虫症	12.5	9.7	7.4	11.8	58.7	22.2
悪性新生物	11.9	13.3	5.7	11.7	57.4	25.3
良性新生物、血液及び造血器の疾 患並びに免疫機能の障害	7.7	5.9	4.8	7.8	73.7	13.7
内分泌、栄養および代謝疾患	13.5	10.2	6.2	10.4	59.7	23.6
精神および行動の疾患	17.1	12.8	7.3	14.9	47.8	30.0
神経系の疾患	24.8	15.3	5.6	9.9	44.4	40.1
目および付属器の疾患、耳および 乳様突起の疾患	14.4	10.6	4.7	8.6	61.7	25.0
循環器系の疾患	22.7	17.1	6.2	9.7	44.3	39.8
呼吸器系の疾患	10.8	10.1	5.2	11.2	62.7	20.9
消化器系の疾患	9.8	10.1	5.7	10.3	64.2	19.9
皮膚および皮下組織の疾患	11.1	9.0	4.5	7.8	67.6	20.1
骨格筋系および結合組織の疾患	32.4	21.0	7.7	11.2	27.7	53.5
尿路生殖器系の疾患	13.9	13.6	6.3	10.1	56.1	27.5
妊娠、分娩および産じょく	3.9	13.9	7.1	6.3	68.8	17.8
周産期に発生した病態	6.8	10.8	7.3	7.0	68.1	17.6

(*)「そう思う」と「ややそう思う」の割合の合計

表5 【心身の状態(5)】 身の周りのことをするのに介助が必要だ (数字は%)

【入院】

	そう思う	ややそう 思う	どちらとも いえない	あまりそう 思わない	そう思わ ない	そう思うの 合計(*)
感染症及び寄生虫症	36.5	10.7	9.0	10.9	32.9	47.3
悪性新生物	23.1	12.0	7.6	11.2	46.0	35.2
良性新生物、血液及び造血器の 疾患並びに免疫機能の障害	24.5	10.2	7.1	12.6	45.6	34.8
内分泌、栄養および代謝疾患	36.8	10.2	9.5	5.2	38.4	47.0
精神および行動の疾患	40.3	10.9	5.2	5.7	38.0	51.1
神経系の疾患	68.8	9.3	5.1	3.9	12.9	78.1
目および付属器の疾患、耳および 乳様突起の疾患	5.9	9.3	5.2	9.6	70.1	15.2
循環器系の疾患	59.0	12.1	4.2	6.1	18.7	71.1
呼吸器系の疾患	51.7	13.2	7.3	5.7	22.1	64.9
消化器系の疾患	22.8	10.0	6.5	12.5	48.2	32.8
皮膚および皮下組織の疾患	47.7	14.3	5.2	8.1	24.8	61.9
骨格筋系および結合組織の疾患	36.0	16.0	10.4	12.7	24.9	52.0
尿路生殖器系の疾患	51.7	9.4	5.6	8.0	25.4	61.1
妊娠、分娩および産じょく	2.9	9.0	14.3	14.6	59.2	11.9
周産期に発生した病態	30.8	12.5	11.9	12.2	32.7	43.3

【外来】

	そう思う	ややそう 思う	どちらとも いえない	あまりそう 思わない	そう思わ ない	そう思うの 合計(*)
感染症及び寄生虫症	4.9	3.2	2.7	8.2	81.0	8.1
悪性新生物	5.1	4.9	3.8	8.9	77.3	10.0
良性新生物、血液及び造血器の 疾患並びに免疫機能の障害	3.1	2.7	2.2	5.1	86.9	5.9
内分泌、栄養および代謝疾患	4.7	4.2	2.8	7.9	80.5	8.9
精神および行動の疾患	12.3	8.1	6.3	9.2	64.1	20.4
神経系の疾患	19.0	10.7	6.7	7.7	55.9	29.7
目および付属器の疾患、耳および 乳様突起の疾患	4.6	6.0	3.3	6.6	79.6	10.6
循環器系の疾患	11.0	7.5	4.7	9.3	67.4	18.5
呼吸器系の疾患	5.9	3.5	4.4	6.8	79.5	9.4
消化器系の疾患	3.8	4.2	2.8	5.6	83.7	8.0
皮膚および皮下組織の疾患	5.2	2.6	3.2	4.4	84.7	7.8
骨格筋系および結合組織の疾患	7.0	7.4	7.4	10.9	67.2	14.4
尿路生殖器系の疾患	6.1	5.2	4.9	7.2	76.5	11.4
妊娠、分娩および産じょく	0.0	3.2	6.0	8.7	82.1	3.2
周産期に発生した病態	2.9	2.2	4.9	6.4	83.6	5.1

(*)「そう思う」と「ややそう思う」の割合の合計

表6 【満足度(1)】 医師による診療・治療内容に満足していますか (数字は%)

【入院】

	非常に満足している	やや満足している	ふつう	やや不満である	不満である	不満の合計(*)
感染症及び寄生虫症	36.1	33.1	27.4	2.1	1.2	3.3
悪性新生物	46.5	32.4	18.7	2.0	0.4	2.4
良性新生物、血液及び造血器の疾患並びに免疫機能の障害	55.3	25.5	17.2	1.7	0.3	2.0
内分泌、栄養および代謝疾患	38.0	29.3	28.8	1.9	2.1	3.9
精神および行動の疾患	28.4	25.8	37.3	6.8	1.7	8.5
神経系の疾患	38.0	29.7	24.4	5.9	2.0	7.9
目および付属器の疾患、耳および乳様突起の疾患	57.4	26.4	13.9	1.5	0.9	2.4
循環器系の疾患	44.2	24.9	26.7	3.7	0.5	4.2
呼吸器系の疾患	43.5	27.7	24.9	3.4	0.4	3.9
消化器系の疾患	46.7	28.2	20.5	3.6	1.0	4.6
皮膚および皮下組織の疾患	44.0	24.3	25.8	5.4	0.5	5.9
骨格筋系および結合組織の疾患	47.4	28.6	19.5	2.6	1.9	4.5
尿路生殖器系の疾患	40.1	28.4	27.5	1.9	2.1	4.0
妊娠、分娩および産じょく	55.4	26.9	16.1	1.5	0.1	1.6
周産期に発生した病態	38.9	34.6	25.5	0.0	1.0	1.0

【外来】

	非常に満足している	やや満足している	ふつう	やや不満である	不満である	不満の合計(*)
感染症及び寄生虫症	24.7	30.0	40.1	4.6	0.5	5.2
悪性新生物	29.0	32.7	33.4	4.3	0.5	4.8
良性新生物、血液及び造血器の疾患並びに免疫機能の障害	23.9	34.0	37.3	4.1	0.7	4.8
内分泌、栄養および代謝疾患	23.9	29.4	41.2	4.8	0.7	5.5
精神および行動の疾患	27.8	31.8	29.3	9.3	1.8	11.1
神経系の疾患	24.2	28.7	41.0	5.7	0.4	6.1
目および付属器の疾患、耳および乳様突起の疾患	22.1	30.7	41.0	5.1	1.1	6.2
循環器系の疾患	26.7	30.5	38.2	4.1	0.6	4.7
呼吸器系の疾患	27.0	31.6	36.7	4.1	0.6	4.7
消化器系の疾患	28.9	31.6	34.4	4.4	0.7	5.1
皮膚および皮下組織の疾患	24.8	30.8	36.0	7.2	1.1	8.4
骨格筋系および結合組織の疾患	24.6	29.4	38.8	6.6	0.7	7.2
尿路生殖器系の疾患	21.3	30.6	41.3	5.5	1.3	6.8
妊娠、分娩および産じょく	23.6	29.2	42.6	4.6	0.0	4.6
周産期に発生した病態	28.9	26.5	39.9	4.0	0.8	4.8

(*)「不満である」と「やや不満である」の割合の合計

表7 【満足度(2)】 医師との対話に満足していますか (数字は%)

【入院】

	非常に満足している	やや満足している	ふつう	やや不満である	不満である	不満の合計(*)
感染症及び寄生虫症	39.1	27.7	25.8	6.0	1.5	7.4
悪性新生物	46.0	29.3	20.4	3.7	0.6	4.3
良性新生物、血液及び造血器の疾患並びに免疫機能の障害	51.7	26.6	17.9	3.5	0.2	3.8
内分泌、栄養および代謝疾患	41.0	25.4	27.0	3.5	3.0	6.6
精神および行動の疾患	25.2	26.8	38.1	8.0	2.0	10.0
神経系の疾患	38.4	28.6	23.7	6.7	2.6	9.3
目および付属器の疾患、耳および乳様突起の疾患	52.7	30.0	14.4	2.0	0.9	2.9
循環器系の疾患	41.4	24.0	27.0	6.4	1.2	7.6
呼吸器系の疾患	39.3	27.4	26.3	5.6	1.4	7.0
消化器系の疾患	43.9	27.7	23.3	4.0	1.1	5.1
皮膚および皮下組織の疾患	44.0	20.3	23.4	11.0	1.4	12.4
骨格筋系および結合組織の疾患	46.6	21.0	25.6	4.9	1.9	6.8
尿路生殖器系の疾患	37.5	26.0	30.0	4.7	1.9	6.5
妊娠、分娩および産じょく	50.0	25.9	21.9	2.1	0.1	2.2
周産期に発生した病態	33.7	28.3	35.5	1.5	1.1	2.5

【外来】

	非常に満足している	やや満足している	ふつう	やや不満である	不満である	不満の合計(*)
感染症及び寄生虫症	26.7	32.9	34.0	5.5	1.0	6.4
悪性新生物	31.1	31.7	30.8	5.8	0.7	6.4
良性新生物、血液及び造血器の疾患並びに免疫機能の障害	26.2	32.6	34.3	5.7	1.3	7.0
内分泌、栄養および代謝疾患	28.3	29.1	37.2	4.3	1.1	5.4
精神および行動の疾患	30.9	28.6	32.2	6.1	2.2	8.3
神経系の疾患	30.1	27.6	37.0	4.5	0.8	5.3
目および付属器の疾患、耳および乳様突起の疾患	23.9	30.7	36.4	7.5	1.4	8.9
循環器系の疾患	30.6	30.1	34.0	4.4	0.9	5.4
呼吸器系の疾患	29.8	30.2	34.1	5.2	0.6	5.9
消化器系の疾患	30.5	30.9	32.5	5.1	1.0	6.2
皮膚および皮下組織の疾患	27.6	30.3	34.4	6.9	0.9	7.7
骨格筋系および結合組織の疾患	27.5	28.8	36.6	5.9	1.2	7.1
尿路生殖器系の疾患	23.4	30.9	37.4	6.6	1.7	8.3
妊娠、分娩および産じょく	29.9	22.8	42.5	4.8	0.0	4.8
周産期に発生した病態	30.0	26.3	37.9	4.7	1.2	5.9

(*)「不満である」と「やや不満である」の割合の合計

表8 【満足度(3)】 医師以外の病院スタッフの対応に満足していますか (数字は%)

【入院】

	非常に満足している	やや満足している	ふつう	やや不満である	不満である	不満の合計(*)
感染症及び寄生虫症	41.1	30.0	25.5	2.2	1.3	3.4
悪性新生物	44.0	34.0	18.7	2.7	0.6	3.2
良性新生物、血液及び造血器の疾患並びに免疫機能の障害	54.7	25.5	17.3	2.4	0.2	2.6
内分泌、栄養および代謝疾患	39.2	27.9	25.6	5.9	1.4	7.2
精神および行動の疾患	27.8	31.1	36.5	3.4	1.2	4.6
神経系の疾患	41.5	29.7	21.6	5.8	1.4	7.2
目および付属器の疾患、耳および乳様突起の疾患	53.0	28.1	14.8	2.8	1.4	4.2
循環器系の疾患	43.3	28.2	21.3	6.1	1.1	7.2
呼吸器系の疾患	44.2	26.1	23.3	6.1	0.3	6.4
消化器系の疾患	42.4	30.8	22.4	3.4	1.0	4.4
皮膚および皮下組織の疾患	40.3	29.4	26.0	4.0	0.3	4.3
骨格筋系および結合組織の疾患	45.6	25.8	24.5	2.4	1.7	4.1
尿路生殖器系の疾患	34.6	32.1	25.3	6.6	1.5	8.1
妊娠、分娩および産じょく	57.8	27.7	12.3	1.7	0.6	2.2
周産期に発生した病態	41.5	29.8	22.7	6.0	0.0	6.0

【外来】

	非常に満足している	やや満足している	ふつう	やや不満である	不満である	不満の合計(*)
感染症及び寄生虫症	26.2	33.2	37.1	3.0	0.5	3.5
悪性新生物	28.9	33.7	33.6	3.0	0.8	3.8
良性新生物、血液及び造血器の疾患並びに免疫機能の障害	25.4	33.8	36.2	3.5	1.1	4.6
内分泌、栄養および代謝疾患	26.2	30.4	39.2	3.0	1.3	4.2
精神および行動の疾患	28.9	27.1	37.3	4.8	1.9	6.7
神経系の疾患	24.5	33.0	38.5	3.9	0.2	4.1
目および付属器の疾患、耳および乳様突起の疾患	24.1	32.0	40.2	3.0	0.7	3.7
循環器系の疾患	27.5	29.8	38.6	3.3	0.8	4.1
呼吸器系の疾患	28.7	31.8	35.6	2.7	1.1	3.8
消化器系の疾患	27.9	33.3	34.5	3.5	0.8	4.3
皮膚および皮下組織の疾患	26.0	33.4	35.6	3.8	1.2	5.0
骨格筋系および結合組織の疾患	28.0	30.0	37.1	3.8	1.1	4.9
尿路生殖器系の疾患	23.4	33.2	36.4	5.5	1.4	6.9
妊娠、分娩および産じょく	29.8	30.3	36.4	1.1	2.3	3.4
周産期に発生した病態	29.9	30.7	34.8	3.4	1.3	4.6

(*)「不満である」と「やや不満である」の割合の合計

表9 【満足度(4)】 痛みなどのからだの症状を和らげる対応に満足していますか (数字は%)

【入院】

	非常に満足している	やや満足している	ふつう	やや不満である	不満である	不満の合計(*)
感染症及び寄生虫症	32.4	30.9	28.1	7.7	0.9	8.6
悪性新生物	38.5	31.7	26.3	3.2	0.3	3.5
良性新生物、血液及び造血器の疾患並びに免疫機能の障害	43.9	28.2	24.2	3.2	0.5	3.7
内分泌、栄養および代謝疾患	32.1	25.6	33.6	7.1	1.7	8.8
精神および行動の疾患	17.4	33.7	37.4	8.7	2.8	11.5
神経系の疾患	24.5	33.9	33.0	8.1	0.6	8.7
目および付属器の疾患、耳および乳様突起の疾患	45.5	26.8	24.7	1.9	1.1	3.1
循環器系の疾患	32.8	26.3	34.4	5.9	0.7	6.6
呼吸器系の疾患	31.6	30.6	32.9	4.3	0.6	4.9
消化器系の疾患	34.7	31.7	28.6	3.5	1.5	5.0
皮膚および皮下組織の疾患	36.9	29.4	26.5	6.6	0.6	7.3
骨格筋系および結合組織の疾患	35.6	28.5	29.7	5.3	0.8	6.1
尿路生殖器系の疾患	27.3	31.0	34.7	6.4	0.5	7.0
妊娠、分娩および産じょく	50.0	27.0	20.8	1.9	0.3	2.2
周産期に発生した病態	32.4	23.4	42.0	2.3	0.0	2.3

【外来】

	非常に満足している	やや満足している	ふつう	やや不満である	不満である	不満の合計(*)
感染症及び寄生虫症	20.2	24.2	50.3	4.3	1.1	5.4
悪性新生物	19.4	28.1	46.6	5.0	0.9	5.9
良性新生物、血液及び造血器の疾患並びに免疫機能の障害	17.0	23.4	53.5	5.2	0.8	6.0
内分泌、栄養および代謝疾患	17.6	22.5	54.1	5.0	0.7	5.8
精神および行動の疾患	18.3	23.8	46.9	8.2	3.0	11.1
神経系の疾患	16.7	24.2	49.7	8.1	1.4	9.5
目および付属器の疾患、耳および乳様突起の疾患	15.1	22.9	54.8	6.3	1.0	7.3
循環器系の疾患	17.9	25.8	51.0	4.6	0.7	5.3
呼吸器系の疾患	20.0	26.6	48.3	4.3	0.8	5.1
消化器系の疾患	22.1	27.6	45.1	4.7	0.5	5.2
皮膚および皮下組織の疾患	17.8	30.2	43.8	6.9	1.3	8.2
骨格筋系および結合組織の疾患	19.6	28.0	41.3	9.5	1.6	11.1
尿路生殖器系の疾患	16.0	25.2	51.2	6.5	1.2	7.6
妊娠、分娩および産じょく	23.0	12.9	59.6	3.4	1.1	4.5
周産期に発生した病態	22.7	21.4	51.1	4.0	0.7	4.8

(*)「不満である」と「やや不満である」の割合の合計

表10 【満足度(5)】 精神的なケアに満足していますか (数字は%)

【入院】

	非常に満足している	やや満足している	ふつう	やや不満である	不満である	不満の合計(*)
感染症及び寄生虫症	26.6	26.7	41.0	4.6	1.1	5.7
悪性新生物	31.6	28.0	35.0	4.8	0.6	5.4
良性新生物、血液及び造血器の疾患並びに免疫機能の障害	37.6	26.2	32.2	3.8	0.4	4.1
内分泌、栄養および代謝疾患	32.8	20.2	35.9	8.4	2.8	11.2
精神および行動の疾患	19.7	31.6	37.8	8.6	2.3	10.9
神経系の疾患	28.2	20.2	39.1	12.0	0.6	12.6
目および付属器の疾患、耳および乳様突起の疾患	44.1	23.0	30.5	0.7	1.6	2.3
循環器系の疾患	31.0	23.7	36.8	7.2	1.3	8.4
呼吸器系の疾患	30.7	20.3	41.0	7.2	0.9	8.1
消化器系の疾患	28.1	27.0	37.8	6.1	0.9	7.1
皮膚および皮下組織の疾患	31.0	20.7	38.0	7.6	2.7	10.3
骨格筋系および結合組織の疾患	29.8	24.3	37.6	6.1	2.2	8.3
尿路生殖器系の疾患	24.0	30.0	36.6	7.3	2.1	9.4
妊娠、分娩および産じょく	40.3	29.6	24.8	4.3	1.0	5.3
周産期に発生した病態	20.6	30.8	46.2	1.7	0.8	2.5

【外来】

	非常に満足している	やや満足している	ふつう	やや不満である	不満である	不満の合計(*)
感染症及び寄生虫症	18.1	19.8	56.7	4.6	0.7	5.4
悪性新生物	18.7	22.0	51.1	6.6	1.6	8.2
良性新生物、血液及び造血器の疾患並びに免疫機能の障害	16.4	20.8	56.6	4.7	1.4	6.1
内分泌、栄養および代謝疾患	17.9	20.9	55.5	4.6	1.2	5.8
精神および行動の疾患	24.7	25.8	36.0	10.0	3.5	13.5
神経系の疾患	17.5	21.4	51.4	8.4	1.3	9.7
目および付属器の疾患、耳および乳様突起の疾患	14.8	20.4	56.9	6.4	1.5	7.9
循環器系の疾患	19.0	22.0	53.5	4.3	1.2	5.5
呼吸器系の疾患	18.0	22.8	53.6	4.3	1.3	5.6
消化器系の疾患	19.3	23.6	51.3	5.0	0.8	5.9
皮膚および皮下組織の疾患	15.4	22.5	55.1	5.3	1.8	7.1
骨格筋系および結合組織の疾患	17.1	20.3	55.4	6.0	1.3	7.3
尿路生殖器系の疾患	14.6	21.2	54.1	7.9	2.2	10.1
妊娠、分娩および産じょく	21.4	18.0	55.1	4.0	1.6	5.6
周産期に発生した病態	22.5	20.6	51.5	4.3	1.2	5.5

(*)「不満である」と「やや不満である」の割合の合計

表11 心身の状態と満足度の各項目の相関(数字はPearsonの相関係数) (数字は%)

	心身の状態					満足度				
	からだの苦 痛がある	痛みがある	気持ちがつ らい	歩くのが大 変だ	身の周りの ことをするの に介助が必 要だ	医師による 診療・治療 内容に満足 しています か	医師との対 話に満足し ていますか	医師以外の 病院スタッ フの対応に 満足してい ますか	痛みなどの からだの症 状を和らげ る対応に満 足していま すか	精神的なケ アに満足し ていますか
からだの苦痛がある	1.00	0.85	0.65	0.57	0.42	-0.06	-0.06	-0.03	-0.11	-0.10
痛みがある	-	1.00	0.55	0.56	0.40	-0.05	-0.05	-0.03	-0.10	-0.09
気持ちがつらい	-	-	1.00	0.53	0.46	-0.10	-0.10	-0.07	-0.14	-0.16
歩くのが大変だ	-	-	-	1.00	0.71	-0.01	-0.02	0.00	-0.06	-0.05
身の周りのことをするのに介助が必要だ	-	-	-	-	1.00	0.01	0.00	0.01	-0.02	-0.02
医師による診療・治療内容に満足していますか	-	-	-	-	-	1.00	0.82	0.59	0.64	0.63
医師との対話に満足していますか	-	-	-	-	-	-	1.00	0.59	0.61	0.63
医師以外の病院スタッフの対応に満足していますか	-	-	-	-	-	-	-	1.00	0.61	0.62
痛みなどのからだの症状を和らげる対応に満足していますか	-	-	-	-	-	-	-	-	1.00	0.73
精神的なケアに満足していますか	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1.00

研究成果の刊行に関する一覧表

書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の 編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ
	なし						

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
	なし				

研究成果の刊行物・別刷

なし